

対象校No.

注4

学校コード F108110101432

注3

設置年度 令和 7年度

計画の区分： 学部の設置

注1

意見伺い

注2

筑波技術大学 共生社会創成学部

**【意見伺い】 設置に係る設置計画履行状況報告書
(改正後大学設置基準適用)**

国立大学法人筑波技術大学
令和7年5月1日現在

作成担当者

担当部局(課)名	大学戦略課
職名・氏名	カカリチョウ ハフトマサフミ 係長 羽太雅史
電話番号	029-858-9310
(夜間)	029-858-9310
e-mail	kikaku@ad.tsukuba-tech.ac.jp

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
- 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。
例) 〇〇大学 △△学部 □□学科
(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))
表題は「計画の区分」に従い、記入してください。
例)
・大学の設置の場合：「〇〇大学」
・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」
- 3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。
なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、
当該番号を記載してください。
https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html
- 4 対象校No.については、「【別紙】令和7年度AC報告書提出対象学科等.pdf」より、
該当番号を記載してください。

目次

共生社会創成学部

＜共生社会創成学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	13
3. 施設・設備の整備状況、経費	21
4. 既設大学等の状況	22
5. 教育研究実施組織の状況	23
6. 附帯事項等に対する履行状況等	36
7. その他全般的事項	37

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

国立大学法人筑波技術大学

(2) 大学名

筑波技術大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒305-8520
茨城県つくば市天久保四丁目3番15

〒305-8521
茨城県つくば市春日四丁目12番7

(注)・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。

・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(イシハラ ヤスシ) 石原 保志 (令和7年4月1日)		
学長	(イシハラ ヤスシ) 石原 保志 (令和7年4月1日)		
学部長	(コウダ ヤスコ) 香田 泰子 (令和7年4月1日)		
学科長等	(シラサワ マユミ) 白澤 麻弓 (令和7年4月1日)		

(注)・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を

()書きで記入してください。

(例) 令和6年度に報告する内容 → (6)

令和7年度に報告する内容 → (7)

・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載（昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正）するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。

・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。

・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注)・当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
 - ・様式は、令和2年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合（令和7年度までの6年間）ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
 - ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「留学」の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生を記載してください。
 - ・短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
共生社会創成学部 共生社会創成学科 学士（情報保障学）	社会学・社会福祉学関係 工学関係	4年	15人	2年次 0人 3年次 0人 4年次 0人	15人	-	

- (注)・定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 - ・「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1）又は（その2の2））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
 - ・学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。（学生募集停止を予定していない場合は「-」を選択。）

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		春季入学以外の学期区分について	収容定員充足率	収容定員充足率（控除後）	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期				
A 入学定員	1人 (-) [-]	1人 (-) [-]	1人 (-) [-]	1人 (-) [-]	1人 (-) [-]	1人 (-) [-]	1人 (-) [-]	1人 (-) [-]	1人 (-) [-]	1人 (-) [-]	15人 (-) [0]	1人 (-) [-]	-	0.86倍	-倍	
志願者数	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	17 [0]	(-) [-]	春季入学以外の入学時期と入学定員内訳			
受験者数	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	16 [0]	(-) [-]				
合格者数	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	13 [0]	(-) [-]				
B 入学者数	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	13 [0]	(-) [-]				
入学定員超過率 B/A												0.86				

- (注)・報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「-」を記入してください。
 - ・（ ）内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなど、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・転入学生は記入しないでください。
 - ・[]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期は「-」を記入してください。
 - ・「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出して下さい。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 - ・報告年度に春季入学以外の学期区分の設定を予定している場合は、「春季入学以外の学期区分について」で「春季入学以外の学期区分を設ける予定」を選択するとともに、下欄に、入学時期と入学定員の内訳（予定を含む）を記載してください。（春季入学以外の学期区分の設定を予定していない場合は「-」を選択。）
 - ・「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引（令和8年度開設用）IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
 - ・「収容定員充足率（控除後）」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の「収容定員充足率」を記入してください。なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。
 - ・「(5) -② 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等」の「平均入学定員超過率」及び「収容定員充足率」は、「4 既設大学等の状況」AC対象学部学科等の倍率と一致しますので、留意して計算してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13	-	
	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[0]	[-]	
	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
2 年次			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
			(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
3 年次					-	-	-	-	-	-	-	-	
					[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
					(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
4 年次							-	-	-	-	-	-	
							[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
							(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13	-	
	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[0]	[-]	
	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	

(注)・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・ []内には、**留学生の状況**について、**内数**で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ ()内には、**留年者の状況**について、**内数**で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ **編入学生や転入学生も含めて**記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。
- ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
令和2年度	人	人	令和2年度	人	人	
令和3年度	人	人	令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
令和4年度	人	人	令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
令和5年度	人	人	令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
			令和5年度	人	人	
令和6年度	人	人	令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
			令和5年度	人	人	
			令和6年度	人	人	
令和7年度	13人	0人	令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
			令和5年度	人	人	
			令和6年度	人	人	
			令和7年度	0人	0人	
合計		0人		0人	0人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
 ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。
 ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留學生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生、転科生も含めて記入してください。
 ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「修学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例) ・修学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(a+b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(a+b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(a+b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(a+b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和6年度】

$$\frac{\text{令和6年度の退学者数(a)}}{\text{令和6年度の在学者数(a+b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和7年度】

$$\frac{\text{令和7年度の退学者数(a)}}{\text{令和7年度の在学者数(a+b)}} = \frac{0}{13} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
 - ・様式は、令和2年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合（令和7年度までの6年間）ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
 - ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「留学」の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生を記載してください。
 - ・短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
共生社会創成学部 共生社会創成学科 視覚障害コース 学士（情報保障学）	社会学・社会福祉学関係 工学関係	4年	10人	2年次 0人 3年次 0人 4年次 0人	10人	-	

- (注) 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 - ・「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1）又は（その2の2））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
 - ・学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。（学生募集停止を予定していない場合は「-」を選択。）

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		春季入学以外の学期区分について	収容定員充足率	収容定員充足率（控除後）	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期				
A 入学定員	1 () []	1 () []	1 () []	1 () []	1 () []	1 () []	1 () []	1 () []	1 () []	1 () []	10 () []	1 () []	-	0.9倍	- 倍	
志願者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	13 []	() []	春季入学以外の入学時期と入学定員内訳			
受験者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	12 []	() []				
合格者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	9 []	() []				
B 入学者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	9 []	() []				
入学定員超過率 B/A	-												0.9			

- (注) 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「-」を記入してください。
 - ・（ ）内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、（（ ）書きとするなど）、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・転入学学生は記入しないでください。
 - ・[]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期は「-」を記入してください。
 - ・「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出して下さい。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 - ・報告年度に春季入学以外の学期区分の設定を予定している場合は、「春季入学以外の学期区分について」で「春季入学以外の学期区分を設ける予定」を選択するとともに、下欄に、入学時期と入学定員の内訳（予定を含む）を記載してください。（春季入学以外の学期区分の設定を予定していない場合は「-」を選択。）
 - ・「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引（令和8年度開設用）IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
 - ・「収容定員充足率（控除後）」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の「収容定員充足率」を記入してください。なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。
 - ・「(5) - ② 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等」の「平均入学定員超過率」及び「収容定員充足率」は、「4 既設大学等の状況」AC対象学部学科等の倍率と一致しますので、留意して計算してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	
	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[0]	[-]	
	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
2 年次			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
			(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
3 年次					-	-	-	-	-	-	-	-	
					[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
					(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
4 年次							-	-	-	-	-	-	
							[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
							(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	
	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[0]	[-]	
	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	

(注)・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・ []内には、**留学生の状況**について、**内数**で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ ()内には、**留年者の状況**について、**内数**で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ **編入学生や転入学生も含めて**記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。
- ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
令和2年度	人	人	令和2年度	人	人	
令和3年度	人	人	令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
令和4年度	人	人	令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
令和5年度	人	人	令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
			令和5年度	人	人	
令和6年度	人	人	令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
			令和5年度	人	人	
			令和6年度	人	人	
令和7年度	9人	0人	令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
			令和5年度	人	人	
			令和6年度	人	人	
			令和7年度	0人	0人	
合計		0人		0人	0人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
 ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。
 ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留學生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生、転科生も含めて記入してください。
 ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「修学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例) ・修学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(a+b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(a+b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(a+b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(a+b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和6年度】

$$\frac{\text{令和6年度の退学者数(a)}}{\text{令和6年度の在学者数(a+b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和7年度】

$$\frac{\text{令和7年度の退学者数(a)}}{\text{令和7年度の在学者数(a+b)}} = \frac{0}{9} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注)・当該調査対象の学部・学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
 - ・様式は、令和2年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合（令和7年度までの6年間）ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
 - ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「留学」の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生を記載してください。
 - ・短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
共生社会創成学部 共生社会創成学科 聴覚障害コース 学士（情報保障学）	社会学・社会福祉学関係 工学関係	4年	5人	2年次 0人 3年次 0人 4年次 0人	5人	-	

- (注)・定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 - ・「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1）又は（その2の2））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
 - ・学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。（学生募集停止を予定していない場合は「-」を選択。）

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		春季入学以外の学期区分について	収容定員充足率	収容定員充足率（控除後）	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期				
A 入学定員	1 () []	1 () []	1 () []	1 () []	1 () []	1 () []	1 () []	1 () []	1 () []	1 () []	5 () [0]	1 () []	-	0.8倍	- 倍	
志願者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	4 [0]	() []	春季入学以外の入学時期と入学定員内訳			
受験者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	4 [0]	() []				
合格者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	4 [0]	() []				
B 入学者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	4 [0]	() []				
入学定員超過率 B/A	-												0.8			

- (注)・報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「-」を記入してください。
 - ・（ ）内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、（（ ）書きとするなど）、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・転入学生は記入しないでください。
 - ・[]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期は「-」を記入してください。
 - ・「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出して下さい。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 - ・報告年度に春季入学以外の学期区分の設定を予定している場合は、「春季入学以外の学期区分について」で「春季入学以外の学期区分を設ける予定」を選択するとともに、下欄に、入学時期と入学定員の内訳（予定を含む）を記載してください。（春季入学以外の学期区分の設定を予定していない場合は「-」を選択。）
 - ・「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引（令和8年度開設用）IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
 - ・「収容定員充足率（控除後）」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の「収容定員充足率」を記入してください。なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。
 - ・「(5) - ② 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等」の「平均入学定員超過率」及び「収容定員充足率」は、「4 既設大学等の状況」AC対象学部学科等の倍率と一致しますので、留意して計算してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	
	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[0]	[-]	
	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
2 年次			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
			(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
3 年次					-	-	-	-	-	-	-	-	
					[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
					(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
4 年次							-	-	-	-	-	-	
							[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
							(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	
	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[0]	[-]	
	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	

(注)・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・ []内には、**留学生の状況**について、**内数**で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ ()内には、**留年者の状況**について、**内数**で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ **編入学生や転入学生も含めて**記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。
- ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
令和2年度	人	人	令和2年度	人	人	
令和3年度	人	人	令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
令和4年度	人	人	令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
令和5年度	人	人	令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
			令和5年度	人	人	
令和6年度	人	人	令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
			令和5年度	人	人	
			令和6年度	人	人	
令和7年度	4人	0人	令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
			令和5年度	人	人	
			令和6年度	人	人	
			令和7年度	0人	0人	
合計		0人		0人	0人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
 ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。
 ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留學生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生、転科生も含めて記入してください。
 ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「修学意欲の低下(○人)」のように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例) ・修学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(a+b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(a+b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(a+b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(a+b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和6年度】

$$\frac{\text{令和6年度の退学者数(a)}}{\text{令和6年度の在学者数(a+b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和7年度】

$$\frac{\text{令和7年度の退学者数(a)}}{\text{令和7年度の在学者数(a+b)}} = \frac{0}{4} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<共生社会創成学部 共生社会創成学科>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			基幹教員等の配置					教員 <small>（助手を除く）</small>
				必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
総合教養教育科目	修学基礎【視覚】	1前	○	1			1	1				1
	修学基礎【聴覚】	1前	○	1			1		1	2		2
	心理学【視覚】	1・2前			2							1
	心理学【聴覚】	1・2前			2							1
	哲学【視覚】	1・2前			2							1
	哲学【聴覚】	1・2前			2							1
	経済学	1・2後			2							1
	歴史学	1・2前			2							1
	文学	1・2後			2		1					1
	情報と社会環境【視覚】	1・2後			2							1
	情報と社会環境【聴覚】	1・2後			2		1					12
	言語学概論【視覚】	1・2後			2			1				1
	言語学概論【聴覚】	1・2後			2					1		1
	法律学	1・2後			2							1
	社会学	1・2後			2							1
	日本国憲法	1・2後			2							1
小計(16科目)	-	-	-	2	28	0	3	2	1	2	0	24
語学教育科目	英語A【視覚】	1前	○	1				1				
	英語A【聴覚】	1前	○	2						1		
	英語B【視覚】	1後	○	1			1					
	英語B【聴覚】	1後	○	2						1		
	英語C【視覚】	2前			1			1				
	英語C【聴覚】	2前			2					1		
	英語D【視覚】	2後			1			1				
	英語D【聴覚】	2後			2					1		
	オールラコミュニケーションA	1前			1							1
	オールラコミュニケーションB	1後			1							1
	オールラコミュニケーションC	2前			1							1
	オールラコミュニケーションD	2後			1							1
	日本語表現法A【視覚】	1前	○	1				1				
	日本語表現法A【聴覚】	1前	○	1						1		1
	日本語表現法B【視覚】	1後	○	1			1					1
	日本語表現法B【聴覚】	1後	○	1						1		1
	中国語1	1前			1							1
	中国語2	1後			1							1
小計(18科目)	-	-	-	12	10	0	1	1	0	1	0	2
手話言語	手話コミュニケーション入門	1前	○		2				1			
	日本手話言語基礎	1後	○		2				1			1
	手話コミュニケーション演習	1後			1				1			
	アメリカ手話言語1	1前			1				1			1
	アメリカ手話言語2	1後			1				1			1
	小計(5科目)	-	-	-	0	7	0	0	0	1	0	0
健康・スポーツ教育科目	健康・スポーツA【視覚】	1前			1							2
	健康・スポーツA【聴覚】	1前			1					1		1
	健康・スポーツB【視覚】	1後			1					1		2
	健康・スポーツB【聴覚】	1後			1					1		1
	健康・スポーツC【視覚】	2前			1							2
	健康・スポーツC【聴覚】	2前			1					1		1
	健康・スポーツD【視覚】	2後			1							2
	健康・スポーツD【聴覚】	2後			1					1		2
	シーズンスポーツA【視覚】	2前			1							2
	シーズンスポーツA【聴覚】	2前			1					1		2
	シーズンスポーツB【視覚】	2後			1							2
	シーズンスポーツB【聴覚】	2後			1					1		2
小計(12科目)	-	-	-	4	8	0	0	0	0	1	0	4

【令和7年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			基幹教員等の配置					教員 <small>（助手を除く）</small>
				必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
総合教養教育科目	修学基礎【視覚】	1前	○	1				1	1			1
	修学基礎【聴覚】	1前	○	1				1		1	2	2
	心理学【視覚】	1・2前			2							1
	心理学【聴覚】	1・2前			2							1
	哲学【視覚】(未開講)	1・2前			2							1
	哲学【聴覚】(未開講)	1・2前			2							1
	経済学	1・2後			2							1
	歴史学	1・2前			2							1
	文学	1・2後			2		1					1
	情報と社会環境【視覚】	1・2後			2							1
	情報と社会環境【聴覚】	1・2後			2		1					12
	言語学概論【視覚】	1・2後			2			1				1
	言語学概論【聴覚】	1・2後			2					1		1
	法律学	1・2後			2							1
	社会学	1・2後			2							1
	日本国憲法	1・2後			2							1
小計(16科目)	-	-	-	2	28	0	3	2	1	2	0	24
語学教育科目	英語A【視覚】	1前	○	1				1				
	英語A【聴覚】	1前	○	2						1		
	英語B【視覚】	1後	○	1				1				
	英語B【聴覚】	1後	○	2						1		
	英語C【視覚】(未開講)	2前			1			1				
	英語C【聴覚】(未開講)	2前			2					1		
	英語D【視覚】(未開講)	2後			1			1				
	英語D【聴覚】(未開講)	2後			2					1		
	オールラコミュニケーションA	1前			1							2
	オールラコミュニケーションB	1後			1							2
	オールラコミュニケーションC(未開講)	2前			1							1
	オールラコミュニケーションD(未開講)	2後			1							1
	日本語表現法A【視覚】	1前	○	1				1				
	日本語表現法A【聴覚】	1前	○	1						1		1
	日本語表現法B【視覚】	1後	○	1			1					1
	日本語表現法B【聴覚】	1後	○	1						1		1
	中国語1	1前			1							1
	中国語2	1後			1							1
小計(18科目)	-	-	-	12	10	0	1	1	0	1	0	3
手話言語	手話コミュニケーション入門(未開講)	1前	○		2					1		
	日本手話言語基礎	1後	○		2					1		1
	手話コミュニケーション演習(未開講)	1後			1					1		
	アメリカ手話言語1(未開講)	1前			1					1		1
	アメリカ手話言語2(未開講)	1後			1					1		1
	小計(5科目)	-	-	-	0	7	0	0	0	0	1	0
健康・スポーツ教育科目	健康・スポーツA【視覚】	1前			1							2
	健康・スポーツA【聴覚】	1前			1						1	1
	健康・スポーツB【視覚】	1後			1						1	2
	健康・スポーツB【聴覚】	1後			1						1	1
	健康・スポーツC【視覚】	2前			1							2
	健康・スポーツC【聴覚】	2前			1					1		1
	健康・スポーツD【視覚】	2後			1							2
	健康・スポーツD【聴覚】	2後			1					1		2
	シーズンスポーツA【視覚】	2前			1							2
	シーズンスポーツA【聴覚】	2前			1					1		2
	シーズンスポーツB【視覚】	2後			1							2
	シーズンスポーツB【聴覚】	2後			1					1		2
小計(12科目)	-	-	-	4	8	0	0	0	0	1	0	4

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要科目	単位数			基幹教員等の配置					教員 <small>（助教を除く）</small>	
				必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育系科目	情報基礎1 情報基礎演習1 情報基礎2 情報基礎演習2 小計(4科目)	1前	○	2				1				1	
		1前	○	1				1				1	
		1後	○	2				1				1	
		1後	○	1				1				1	
	情報リテラシー 情報基礎論A 情報基礎論・演習B 情報数理 小計(4科目)	1前	○	2			1					3	
		2前	○	2			1					1	
		2後	○	3			1					1	
		2前		2								1	
	基礎科目	小計(4科目)	-	-	7	2	0	1	0	0	0	0	5
		数学基礎【視覚】	1前	○	2			1					1
		数学基礎【聴覚】	1前	○	2			1					1
		社会統計学A【視覚】	1前	○	2			1					1
		社会統計学A【聴覚】	1前	○	2			1					1
		社会統計学B【視覚】	1後		2			1					1
社会統計学B【聴覚】		1後		2			1					1	
社会調査論		2前		2								1	
質的調査法		2後		2			1					1	
小計(8科目)		-	-	12	4	0	2	2	0	0	0	3	
専門教育系科目	障害社会学系科目	情報社会と情報倫理【視覚】	2後		2							1	
		情報社会と情報倫理【聴覚】	2後		2							1	
		障害者の就労と社会【視覚】	2前	○	2		1						
		障害者の就労と社会【聴覚】	2後	○	2							1	
		異文化コミュニケーション【視覚】	2・3・4前		1							1	
		異文化コミュニケーション【聴覚】	2・3・4通		1		1		1				
		専門英語1【視覚】	3前		1		1						
		専門英語1【聴覚】	3前		1					1			
		専門英語2【視覚】	3後		1		1						
		専門英語2【聴覚】	3後		1					1			
		障害者生活環境論【視覚】	3後		2							3	
		障害者生活環境論【聴覚】	3後		2							3	
		インターンシップ	3前	○	2		1						
		社会保障論	4前		2		1						
小計(14科目)	-	-	4	18	0	2	3	1	1	0	7		
視覚・聴覚障害系共同実施	障害の特性と理解	1後	○	2			1	1				4	
	障害社会学	1後	○	2			1	1				4	
	ダイバーシティの理解	2前	○	2			1	1				4	
	教育とダイバーシティ	2後	○	2			1	1				4	
	社会福祉学	3前	○	2			1					4	
	共生社会と支援	3前	○	2			1					4	
	手話・点字と障害支援技術	3前	○	1		1	1	1				4	
	障害者スポーツ	3後	○	1		1			1			4	
	盲ろう者の理解と支援	3後	○	1		1	2	1				4	
	諸外国の障害者と文化・社会・生活	3後	○	2		1	1	2				4	
小計(10科目)	-	-	13	4	0	2	5	4	1	0	21		
情報アクセシビリティ科目(視覚障害系)	視覚障害学概論	1前	○	2			1	1				4	
	視覚障害者社会参加論	2後		2								4	
	点字の理論と実際	1前	○	2			1					4	
	障害補償演習1	1前		1		1	2	1				4	
	障害補償演習2	1後		1		1	2	1				4	
	コミュニケーション演習	2前	○	1		1						4	
	環境マネジメント	3前		2								4	
	視覚障害当事者研究1	2前	○	2			2					4	
	視覚障害当事者研究2	2後	○	2			2					4	
	視覚障害当事者研究3	3後	○	2			2					4	
	業務研究	3前		2								4	
小計(11科目)	-	-	11	8	0	1	3	1	0	0	4		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要科目	単位数			基幹教員等の配置					教員 <small>（助教を除く）</small>	
				必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育系科目	情報基礎1 情報基礎演習1 情報基礎2 情報基礎演習2 小計(4科目)	1前	○	2				1				1	
		1前	○	1				1				1	
		1後	○	2				1				1	
		1後	○	1				1				1	
	情報リテラシー 情報基礎論A(未開講) 情報基礎論・演習B(未開講) 情報数理(未開講) 小計(4科目)	1前	○	2			1					3	
		2前	○	2			1					1	
		2後	○	3			1					1	
		2前		2								1	
	基礎科目	小計(4科目)	-	-	7	2	0	1	0	0	0	0	5
		数学基礎【視覚】	1前	○	2			1					1
		数学基礎【聴覚】	1前	○	2			1					1
		社会統計学A【視覚】	1前	○	2			1					1
		社会統計学A【聴覚】	1前	○	2			1					1
		社会統計学B【視覚】	1後		2			1					1
社会統計学B【聴覚】		1後		2			1					1	
社会調査論		2前		2								1	
質的調査法		2後		2			1					1	
小計(8科目)		-	-	12	4	0	2	2	0	0	0	3	
専門教育系科目	障害社会学系科目	情報社会と情報倫理【未開講】	2後		2							1	
		情報社会と情報倫理【未開講】	2後		2							1	
		障害者の就労と社会【未開講】	2前	○	2		1						
		障害者の就労と社会【未開講】	2前	○	2							1	
		異文化コミュニケーション【未開講】	2・3・4前		1							1	
		異文化コミュニケーション【未開講】	2・3・4通		1		1		1				
		専門英語1【未開講】	3前		1		1						
		専門英語1【未開講】	3前		1					1			
		専門英語2【未開講】	3後		1		1						
		専門英語2【未開講】	3後		1					1			
		障害者生活環境論【未開講】	3後		2							3	
		障害者生活環境論【未開講】	3後		2							3	
		インターンシップ【未開講】	3前	○	2		1						
		社会保障論【未開講】	4前		2		1						
小計(14科目)	-	-	4	18	0	2	3	1	1	0	7		
視覚・聴覚障害系共同実施	障害の特性と理解	1後	○	2			1	1				4	
	障害社会学	1後	○	2			1	1				4	
	ダイバーシティの理解	2前	○	2			1	1				4	
	教育とダイバーシティ	2後	○	2			1	1				4	
	社会福祉学	3前	○	2			1					4	
	共生社会と支援	3前	○	2			1					4	
	手話・点字と障害支援技術	3前	○	1		1	1	1				4	
	障害者スポーツ	3後	○	1		1			1			4	
	盲ろう者の理解と支援	3後	○	1		1	2	1				4	
	諸外国の障害者と文化・社会・生活	3後	○	2		1	1	2				4	
小計(10科目)	-	-	13	4	0	2	5	4	1	0	21		
情報アクセシビリティ科目(視覚障害系)	視覚障害学概論	1前	○	2			1	1				4	
	視覚障害者社会参加論	2後		2								4	
	点字の理論と実際	1前	○	2			1					4	
	障害補償演習1	1前		1		1	2	1				4	
	障害補償演習2	1後		1		1	2	1				4	
	コミュニケーション演習	2前	○	1		1						4	
	環境マネジメント	3前		2								4	
	視覚障害当事者研究1	2前	○	2			2					4	
	視覚障害当事者研究2	2後	○	2			2					4	
	視覚障害当事者研究3	3後	○	2			2					4	
	業務研究	3前		2								4	
小計(11科目)	-	-	11	8	0	1	3	1	0	0	4		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主授科目	単位数			基幹教員等の配置					教員数 (助手を 除く)		
				必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育系科目 情報アクセシビリティ科目(聴覚障害系)	情報保障概論	1前	○	2			2						1	
	聴覚科学	2後		2									1	
	ろう・難聴者の社会参加	2前	○	2					1				1	
	ろう・難聴者を取り巻く社会資源	2後	○	3			2						3	
	日本語社会とコミュニケーション	2前			2								1	
	セルフアドボカシー演習	2後	○	1					3				1	
	聴覚障害と就労	3後	○		2					1			1	
	ライフキャリア	3前	○		2					1			1	
	視覚言語表現技法	3後			2					1			1	
	小計(9科目)	-	-	-	10	8	0	2	0	4	0	0	6	
	情報科学系科目	情報科学概論【視覚】	1後		2									1
		情報科学概論【聴覚】	2前		2									13
プログラミング基礎【視覚】		2前	○	2			1						1	
プログラミング基礎【聴覚】		2前	○	2			1						1	
ウェブテクノロジとセキュリティ【視覚】		1後		2									1	
ウェブテクノロジとセキュリティ【聴覚】		1後		2									1	
データベース基礎と検索技術【視覚】		2後		2									1	
データベース基礎と検索技術【聴覚】		2後		2									1	
アルゴリズムとデータ構造【視覚】		2後		2									1	
アルゴリズムとデータ構造【聴覚】		3前		2									1	
ヒューマンインタフェース【視覚】		3前	○	2			1						3	
ヒューマンインタフェース【聴覚】		3前	○	2			1						3	
小計(12科目)	-	-	-	12	12	0	2	1	0	0	0	17		
視覚・聴覚障害系 共同実施	プログラミング応用	2後	○	2		1							1	
	データ解析法演習	4前		1									1	
	社会システム評価設計論	3前	○	2									2	
	教育支援工学	4前	○	2									2	
	小計(4科目)	-	-	-	0	7	0	1	0	0	0	0	3	
情報保障工学 (視覚障害系)	移動支援工学演習	1前		1									1	
	情報アクセシビリティ	1後	○	2			1						1	
	情報アクセシビリティ演習	1後	○	1			1						1	
	障害者サポート技法	3後	○	2			1						1	
	アクセシブルドキュメント	3後	○	2			2						2	
	アクセシブルモデリング	4前		2			1						1	
	音声ユーザインタフェース	4通		2									1	
小計(7科目)	-	-	-	3	9	0	1	2	0	0	0	2		
情報保障工学 (聴覚障害系)	支援技術学論	2前	○	2			2						9	
	支援技術学演習	2前	○	1			2						9	
	情報保障技術学・演習	3後		3									5	
	Webデザイン論	3前		2									1	
	Webデザイン演習	3前		1									1	
	デジタル画像処理	3・4後		2									1	
	小計(6科目)	-	-	-	3	8	0	2	0	0	0	0	14	
ト系科目 共生社会 創成プロ ジェク ト	共生社会演習1	3前	○	1			1	1	1					
	共生社会演習2	3後	○	1			1	1		1				
	共生社会創成プロジェクト実習A	2後	○	1				1	2					
	共生社会創成プロジェクト実習B	3前	○	1				2	1					
	共生社会創成プロジェクト実習C	3後	○	2				2		1				
	共生社会創成特別研究1	4前	○	3			6	6	5	2				
	共生社会創成特別研究2	4後	○	3			6	6	5	2				
小計(7科目)	-	-	-	12	0	0	6	6	5	2	0	0		
合計(147科目)	-	-	-	111	133	0	6	6	5	2	0	76		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主授科目	単位数			基幹教員等の配置					教員数 (助手を 除く)		
				必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育系科目 情報アクセシビリティ科目(聴覚障害系)	情報保障概論	1前	○	2			2						1	
	聴覚科学(未開講)	2後		2									1	
	ろう・難聴者の社会参加(未開講)	2前	○	2					1				1	
	ろう・難聴者を取り巻く社会資源(未開講)	2後	○	3			2						3	
	日本語社会とコミュニケーション(未開講)	2前			2								1	
	セルフアドボカシー演習(未開講)	2後	○	1					3				1	
	聴覚障害と就労(未開講)	3後	○		2					1			1	
	ライフキャリア(未開講)	3前	○		2					1			1	
	視覚言語表現技法(未開講)	3後			2					1			1	
	小計(9科目)	-	-	-	10	8	0	2	0	4	0	0	6	
	情報科学系科目	情報科学概論【視覚】	1後		2									1
		情報科学概論【聴覚】(未開講)	2前		2									13
プログラミング基礎【視覚】(未開講)		2前	○	2			1						1	
プログラミング基礎【聴覚】(未開講)		2前	○	2			1						1	
ウェブテクノロジとセキュリティ【視覚】		1後		2									1	
ウェブテクノロジとセキュリティ【聴覚】		1後		2									1	
データベース基礎と検索技術【視覚】(未開講)		2後		2									1	
データベース基礎と検索技術【聴覚】(未開講)		2後		2									1	
アルゴリズムとデータ構造【視覚】(未開講)		2後		2									1	
アルゴリズムとデータ構造【聴覚】(未開講)		3前		2									1	
ヒューマンインタフェース【視覚】(未開講)		3前	○	2			1						3	
ヒューマンインタフェース【聴覚】(未開講)		3前	○	2			1						3	
小計(12科目)	-	-	-	12	12	0	2	1	0	0	0	17		
視覚・聴覚障害系 共同実施	プログラミング応用(未開講)	2後	○	2		1							1	
	データ解析法演習(未開講)	4前		1									1	
	社会システム評価設計論(未開講)	3前	○	2									2	
	教育支援工学(未開講)	4前	○	2									2	
	小計(4科目)	-	-	-	0	7	0	1	0	0	0	0	3	
情報保障工学 (視覚障害系)	移動支援工学演習	1前		1									1	
	情報アクセシビリティ	1後	○	2			1						1	
	情報アクセシビリティ演習	1後	○	1			1						1	
	障害者サポート技法(未開講)	3後	○	2			1						1	
	アクセシブルドキュメント(未開講)	3後	○	2			2						2	
	アクセシブルモデリング(未開講)	4前		2			1						1	
	音声ユーザインタフェース(未開講)	4通		2									1	
小計(7科目)	-	-	-	3	9	0	1	2	0	0	0	2		
情報保障工学 (聴覚障害系)	支援技術学論(未開講)	2前	○	2			2						9	
	支援技術学演習(未開講)	2前	○	1			2						9	
	情報保障技術学・演習(未開講)	3後		3									5	
	Webデザイン論(未開講)	3前		2									1	
	Webデザイン演習(未開講)	3前		1									1	
	デジタル画像処理(未開講)	3・4後		2									1	
	小計(6科目)	-	-	-	3	8	0	2	0	0	0	0	14	
ト系科目 共生社会 創成プロ ジェク ト	共生社会演習1(未開講)	3前	○	1			1	1	1					
	共生社会演習2(未開講)	3後	○	1			1	1		1				
	共生社会創成プロジェクト実習A(未開講)	2後	○	1				1	2					
	共生社会創成プロジェクト実習B(未開講)	3前	○	1				2	1					
	共生社会創成プロジェクト実習C(未開講)	3後	○	2				2		1				
	共生社会創成特別研究1(未開講)	4前	○	3			6	6	5	2				
	共生社会創成特別研究2(未開講)	4後	○	3			6	6	5	2				
小計(7科目)	-	-	-	12	0	0	6	6	5	2	0	0		
合計(147科目)	-	-	-	111	133	0	6	6	5	2	0	76		

卒業要件及び履修方法
<p>【視覚障害コース】</p> <p>1. 教養教育系科目 41単位</p> <p>(1)総合教養教育科目 必修科目1単位、選択科目12単位以上</p> <p>(2)語学教育科目 必修科目6単位、選択科目4単位以上</p> <p>(3)健康・スポーツ教育科目 必修科目2単位、選択科目2単位以上</p> <p>(4)データサイエンス科目 必修科目14単位</p> <p>2. 専門教育系科目 83単位</p> <p>(1)障害社会学系科目 必修科目26単位、選択科目18単位以上</p> <p>(2)情報科学系科目 必修科目9単位、選択科目18単位以上</p> <p>(3)共生社会創成プロジェクト系科目 必修科目12単位</p> <p>卒業単位 124単位 (履修科目の登録上限 50単位(年間))</p> <p>障害社会学系科目の選択科目のうち、インターンシップ、障害者スポーツ、盲ろう者の理解と支援、諸外国の障害者と文化・社会・生活、視覚障害当事者研究3から6単位を選択必修とする。</p> <p>情報科学系科目の選択科目のうち、ヒューマンインタフェース、プログラミング応用、社会システム評価設計論、教育支援工学、障害者サポート技法、アクセシブルドキュメントから10単位を選択必修とする。</p>
<p>【聴覚障害コース】</p> <p>1. 教養教育系科目 45単位</p> <p>(1)総合教養教育科目 必修科目1単位、選択科目12単位以上</p> <p>(2)語学教育科目 必修科目6単位、選択科目7単位以上</p> <p>(3)健康・スポーツ教育科目 必修科目2単位、選択科目2単位以上</p> <p>(4)データサイエンス科目 必修科目15単位</p> <p>2. 専門教育系科目 79単位</p> <p>(1)障害社会学系科目 必修科目25単位、選択科目17単位以上</p> <p>(2)情報科学系科目 必修科目9単位、選択科目16単位以上</p> <p>(3)共生社会創成プロジェクト系科目 必修科目12単位</p> <p>卒業単位 124単位 (履修科目の登録上限 50単位(年間))</p> <p>語学教育科目の選択科目のうち、手話コミュニケーション入門、日本語言語基礎から2単位を選択必修とする。</p> <p>障害社会学系科目の選択科目のうち、インターンシップ、障害者スポーツ、盲ろう者の理解と支援、諸外国の障害者と文化・社会・生活、聴覚障害と就労、ライフキャリアから8単位を選択必修とする。</p> <p>情報科学系科目の選択科目のうち、ヒューマンインタフェース、プログラミング応用、社会システム評価設計論、教育支援工学から6単位を選択必修とする。</p>

卒業要件及び履修方法
<p>【視覚障害コース】</p> <p>1. 教養教育系科目 41単位</p> <p>(1)総合教養教育科目 必修科目1単位、選択科目12単位以上</p> <p>(2)語学教育科目 必修科目6単位、選択科目4単位以上</p> <p>(3)健康・スポーツ教育科目 必修科目2単位、選択科目2単位以上</p> <p>(4)データサイエンス科目 必修科目14単位</p> <p>2. 専門教育系科目 83単位</p> <p>(1)障害社会学系科目 必修科目26単位、選択科目18単位以上</p> <p>(2)情報科学系科目 必修科目9単位、選択科目18単位以上</p> <p>(3)共生社会創成プロジェクト系科目 必修科目12単位</p> <p>卒業単位 124単位 (履修科目の登録上限 50単位(年間))</p> <p>障害社会学系科目の選択科目のうち、インターンシップ、障害者スポーツ、盲ろう者の理解と支援、諸外国の障害者と文化・社会・生活、視覚障害当事者研究3から6単位を選択必修とする。</p> <p>情報科学系科目の選択科目のうち、ヒューマンインタフェース、プログラミング応用、社会システム評価設計論、教育支援工学、障害者サポート技法、アクセシブルドキュメントから10単位を選択必修とする。</p> <p>保健科学部の科目のうち、本学部が指定する科目(オペレーションリサーチ、意思決定法、ヒューマンインタフェース2、情報理論、多変量解析、オペレーティングシステム1、経営情報システム論、ビジネスデータ処理1、ビジネスデータ処理2、オフィス情報処理・演習)を履修した場合は、6単位を限度として情報科学系科目の選択科目の単位として充当することができる。</p>
<p>【聴覚障害コース】</p> <p>1. 教養教育系科目 45単位</p> <p>(1)総合教養教育科目 必修科目1単位、選択科目12単位以上</p> <p>(2)語学教育科目 必修科目6単位、選択科目7単位以上</p> <p>(3)健康・スポーツ教育科目 必修科目2単位、選択科目2単位以上</p> <p>(4)データサイエンス科目 必修科目15単位</p> <p>2. 専門教育系科目 79単位</p> <p>(1)障害社会学系科目 必修科目25単位、選択科目17単位以上</p> <p>(2)情報科学系科目 必修科目9単位、選択科目16単位以上</p> <p>(3)共生社会創成プロジェクト系科目 必修科目12単位</p> <p>卒業単位 124単位 (履修科目の登録上限 50単位(年間))</p> <p>語学教育科目の選択科目のうち、手話コミュニケーション入門、日本語言語基礎から2単位を選択必修とする。</p> <p>障害社会学系科目の選択科目のうち、インターンシップ、障害者スポーツ、盲ろう者の理解と支援、諸外国の障害者と文化・社会・生活、聴覚障害と就労、ライフキャリアから8単位を選択必修とする。</p> <p>情報科学系科目の選択科目のうち、ヒューマンインタフェース、プログラミング応用、社会システム評価設計論、教育支援工学から6単位を選択必修とする。</p> <p>産業技術学部の科目のうち、本学部が指定する科目(情報保障システム工学・演習、情報保障評価法・演習、情報アクセシビリティ演習、映像論・演習、福祉機器設計学、福祉機器材料学、住居・住生活論、医療福祉施設計画論、ユニバーサルデザイン論)を履修した場合は、6単位を限度として情報科学系科目の選択科目の単位として充当することができる。</p>

(注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ なお、設置認可時又は届出時、改正前大学設置基準(令和4年10月1日施行前)に基づき、対象学部等を設置している場合、改正後大学設置基準等(令和4年10月1日施行)の適用以前については、改正前様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
- ・ 「基幹教員等の配置」欄は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等の配置」としてください。
- ・ 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員(助手を除く)」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員(助手を除く)」としてください。
- ・ 「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の授業科目全て(基幹教員(大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は「専任教員」)以外の教員(助手を除く)(改正後大学設置基準等の適用以前は兼任、兼任教員)が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字**としてください。
- ・ なお、設置認可時又は届出時、改正前大学設置基準等(令和4年10月1日施行前)に基づき、対象学部等を設置している場合、「認可時又は届出時」の「主要授業科目」欄は削除し、「基幹教員等の配置」欄は「専任教員等の配置」、「基幹教員以外の教員(助手を除く)」欄は「兼任・兼任」としてください。その上で、各年度については、「基幹教員(大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は「専任教員」)数」は、認可時又は届出時の「専任教員」数との比較において変更となっている箇所、「基幹教員以外の教員(助手を除く)(大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は「専任教員以外の教員(助手を除く)」)数」は、「認可時又は届出時の「兼任・兼任」数との比較において変更となっている箇所を赤字」としてください。
- ・ (専任教員から基幹教員に変更したことをもって赤字とする必要はありません。)
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
- ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
- ・ 不要な年度(令和6年度開設であれば令和5年度以前)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
- ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、旧カリキュラムについても記載してください。その場合は、新カリキュラムを全て記載したのち、最後に記載欄を追加し、年度ごとに記載してください。新旧がある年度については、その別がわかるように各年度の右側に(新)又は(旧)と追記してください。(例：記載順)【認可時又は届出時】→【令和7年度(新)】→【令和6年度(新)】→【令和5年度】→【令和4年度】→【令和3年度(旧)】→【令和2年度(旧)】

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和7年度】

- ・学生の習熟度別にクラスを分けて実施することで、より学生の学習効果を高めるため、「オーラルコミュニケーションA」「オーラルコミュニケーションB」を2クラス編成にし、基幹教員以外の教員（助手を除く）の配置を「1」から「2」に変更。
- ・科目の難易度及び関連する科目の配当年次等を踏まえ、学生の学習効果をより高めるため、「障害者の就労と社会」の配当年次を「2後」から「2前」に変更。
- ・科目の難易度及び関連する科目の配当年次等を踏まえ、学生の学習効果をより高めるため、「アルゴリズムとデータ構造」の配当年次を「3前」から「3後」に変更。
- ・情報科学に強い関心と意欲を持つ学生の学びをさらに広げるため、他学部が開講する情報科学系科目の履修も認め、6単位を上限に、本学部の情報科学系科目の選択科目の単位として充当できるように変更。

- (注)・ 2 (1) -① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、基幹教員等の配置の変更、主要授業科目の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を簡条書きで記入してください。
変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。また、改正後大学設置基準（令和4年10月1日施行）の適用により、専任教員から基幹教員に変更した場合（例：「専任教員 教授1」から「基幹教員 教授1」に変更）や、兼任・兼任教員から基幹教員以外の教員に変更した場合（例：「兼任教員1」から「基幹教員以外の教員1」に変更）については、記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（令和6年度開設であれば令和5年度以前）の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
66 科目	81 科目	0 科目	147 科目	66 科目 [±0]	81 科目 [±0]	0 科目 [±0]	147 科目 [±0]	

- (注)・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム（新カリキュラム）の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム（旧カリキュラム）の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

(注)・配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。

- ・履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
- ・教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
- ・専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
- ・該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

(注)・設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。

- ・教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
- ・専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
- ・該当がない場合は「廃止の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

--

(注)・授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{147} = \boxed{0}\%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考		
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計			
	校舎敷地	71,292㎡	0㎡	0㎡	71,292㎡			
	そ の 他	0㎡	0㎡	0㎡	0㎡			
	合 計	71,292㎡	0㎡	0㎡	71,292㎡			
(2) 校 舎	専 用	17,260㎡	0㎡	0㎡	17,260㎡			
	(17,260㎡)	(0㎡)	(0㎡)	(0㎡)	(17,260㎡)			
(3) 教室・教員研究室		教 室	108 104室	教員研究室	101室	大学全体 施設の改修による教室4 室の増設のため。(7)		
(4) 図書・設備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕		学術雑誌 〔うち外国書〕		機械・器具 点	標本 点	
		冊	電子図書 〔うち外国書〕	種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕			
	共生社会創成学部	97,957 [11,957] (86,580 [11,687]) (94,993 [11,867])	1,219 [715] (1,036 [715]) (1,072 [715])	3,348 [2,432] (3,311 [2,431]) (3,318 [2,429])	2,198 [2197] (2,202 [2,201]) (2,198 [2,197])	0 (0)	0 (0)	
	計	97,957 [11,957] (86,580 [11,687]) (94,993 [11,867])	1,219 [715] (1,036 [715]) (1,072 [715])	3,348 [2,432] (3,311 [2,431]) (3,318 [2,429])	2,198 [2197] (2,202 [2,201]) (2,198 [2,197])	(0)	(0)	
(5) スポーツ施設等	スポーツ施設		講堂		厚生補導施設		大学全体	
	1,604㎡		438㎡		1,883㎡			
(6) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円
		共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		千円	千円	千円	千円	千円	千円	
学生納付金以外の維持方法の概要								

(注)・設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)又は(その1の3)に準じて作成してください。

(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はA C対象学部等の数値を記入してください。)

- ・「(4)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には報告年度の5月1日現在の数値を記入してください。
- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(6)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・校舎等建物の計画の変更(校舎の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
- ・高等専門学校については「(3)教室・教員研究室」欄の「教員研究室」は記載不要です。
- ・国立大学については「(6)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	筑波技術大学						収容定員充足率0.7倍以下の学科数	1	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	0	
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備考
	年	人	年次人 2、3年次 若干名	人		倍	倍	年度	年度		
産業技術学部	4	45	2、3年次 若干名	195	-	0.97	-	-	平成18	-	
産業情報学科	4	32	2、3年次 若干名	137	学士 (工学)	0.94	-	-	平成18	茨城県つくば市 天久保4-3-15	令和7年度から入学定員変更 (35→32)
総合デザイン学科	4	13	2、3年次 若干名	58	学士 (デザイン学)	1.05	1.01	-	平成18	同上	令和7年度から入学定員変更 (15→13)
保健科学部	4	30	2、3年次 若干名	150	-	0.62	-	-	平成18	-	
保健学科	4	20	2、3年次 若干名	110	-	0.43	-	-	平成18	茨城県つくば市 春日4-12-7	
鍼灸学専攻	4	10	2、3年次 若干名	70	学士 (鍼灸学)	0.45	-	-	平成18	同上	令和7年度から入学定員変更 (20→10)
理学療法学専攻	4	10	2年次 若干名	40	学士 (理学療法学)	0.40	-	-	平成18	同上	
情報システム学科	4	10	0	40	学士 (工学)	1.12	-	-	平成18	同上	
共生社会創成学部	4	15	0	15	-	0.86	-	-	令和7	-	
共生社会創成学科	4	15	0	15	-	0.86	-	-	令和7	-	
視覚障害コース	4	10	0	10	学士 (情報保障学)	0.90	-	-	令和7	茨城県つくば市 春日4-12-7	
聴覚障害コース	4	5	0	5	学士 (情報保障学)	0.80	-	-	令和7	茨城県つくば市 天久保4-3-15	
大学全体	4	90	2、3年次 若干名	360	-	-	-	-	-	-	

(注)・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校(以下「大学等」という。)について、既に設置している学部等(短期大学、高等専門学校にあつては学科等)の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。(大学院、専攻科及び別科を除く)

なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。

- ・記載項目以外、保護をかけています。不要な行は、「非表示」設定としてください。また、記載する必要がない学校種の記載欄については、「入学定員超過率」及び「収容定員充足率」が0.7倍以下又は1.15倍以上の学科数を記入する項目を「-」とした上で、「非表示」設定としてください。
- ・学部の学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
- ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
- ・本年度A Cの対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
- ・「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。開設後、完成年度を迎えていない学科等については、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記載してください。算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和8年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
- ・「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。
- ・「収容定員充足率(控除後含む)」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、0.7倍以下又は1.15倍以上の学科については、必ず太字にしてください。当該設定は、学科のみとし、学部及び専攻を太字にする必要はありません。
- ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。
- ・「所在地」及び「備考」欄については、セルの結合ではなく、書式設定より設定の上、文字サイズ変更を行ってください。詳しくは、本シート右に記載のコメント機能で操作方法を案内していますのでご参照ください。

5 教育研究実施組織の状況

<共生社会創成学部 共生社会創成学科>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【令和7年度】

教員区分	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	教員区分	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
基(主専)	教授 (学歴)	香田 泰子 <令和7年4月> 博士(ヒューマン科学)	修学基礎【視覚】 健康・スポーツA【視覚】 健康・スポーツB【視覚】	基(主専)	教授 (学歴)	香田 泰子 <令和7年4月> 博士(ヒューマン科学)	修学基礎【視覚】 健康・スポーツA【視覚】 健康・スポーツB【視覚】
その他	講師	香田 泰子 <令和8年4月> 博士(ヒューマン科学)	修学基礎【視覚】 健康・スポーツA【視覚】 健康・スポーツB【視覚】 健康・スポーツC【視覚】 健康・スポーツD【視覚】 シニアスポーツA【視覚】 シニアスポーツB【視覚】 障害者スポーツ	その他	講師	香田 泰子 <令和8年4月> 博士(ヒューマン科学)	修学基礎【視覚】 健康・スポーツA【視覚】 健康・スポーツB【視覚】 健康・スポーツC【視覚】 健康・スポーツD【視覚】 シニアスポーツA【視覚】 シニアスポーツB【視覚】 障害者スポーツ
基(主専)	教授	新井 達也 <令和7年4月> 博士(理学)	修学基礎【聴覚】 数学基礎【聴覚】 共生社会創成特別研究1 共生社会創成特別研究2	基(主専)	教授	新井 達也 <令和7年4月> 博士(理学)	修学基礎【聴覚】 数学基礎【聴覚】 共生社会創成特別研究1 共生社会創成特別研究2
基(主専)	教授 (学歴)	伊藤 和之 <令和7年4月> 博士(学術)	修学基礎【視覚】 文学 日本語表現法A【視覚】 日本語表現法B【視覚】 障害者の教育と社会【視覚】 視覚障害学概論 ※ 障害補償演習1 障害補償演習2 コミュニケーション演習 共生社会演習1 共生社会演習2 共生社会創成特別研究1 共生社会創成特別研究2	基(主専)	教授 (学歴)	伊藤 和之 <令和7年4月> 博士(学術)	修学基礎【視覚】 文学 日本語表現法A【視覚】 日本語表現法B【視覚】 障害者の教育と社会【視覚】 視覚障害学概論 ※ 障害補償演習1 障害補償演習2 コミュニケーション演習 共生社会演習1 共生社会演習2 共生社会創成特別研究1 共生社会創成特別研究2
基(主専)	教授 (学歴)	白澤(河野)麻弓 <令和7年4月> 博士(心身障害学)	異文化コミュニケーション【聴覚】 障害の特性と理解 ※ 手話・点字と障害支援技術 盲ろう者の理解と支援 諸外国の障害者と文化・社会・生活 ※ 情報保障概論 ※ ろう・難聴者を取り巻く社会資源 ※ 共生社会創成特別研究1 共生社会創成特別研究2	基(主専)	教授 (学歴)	白澤(河野)麻弓 <令和7年4月> 博士(心身障害学)	異文化コミュニケーション【聴覚】 障害の特性と理解 ※ 手話・点字と障害支援技術 盲ろう者の理解と支援 諸外国の障害者と文化・社会・生活 ※ 情報保障概論 ※ ろう・難聴者を取り巻く社会資源 ※ 共生社会創成特別研究1 共生社会創成特別研究2
基(主専)	教授	三好 茂樹 <令和7年4月> 博士(工学)	情報保障概論 ※ ろう・難聴者を取り巻く社会資源 ※ プログラミング応用 支援技術学論 ※ 支援技術学演習 ※ 共生社会創成特別研究1 共生社会創成特別研究2	基(主専)	教授	三好 茂樹 <令和7年4月> 博士(工学)	情報保障概論 ※ ろう・難聴者を取り巻く社会資源 ※ プログラミング応用 支援技術学論 ※ 支援技術学演習 ※ 共生社会創成特別研究1 共生社会創成特別研究2
基(主専)	准教授	青木 千帆子 <令和7年4月> 博士(人間科学)	質的調査法 社会保障論 障害の特性と理解 ※ 障害社会学 ダイバーシティの理解 教育とダイバーシティ 社会福祉学 盲ろう者の理解と支援 視覚障害当事者研究1 ※ 視覚障害当事者研究2 ※ 視覚障害当事者研究3 ※ 共生社会創成プロジェクト実習 共生社会創成特別研究1 共生社会創成特別研究2	基(主専)	准教授	青木 千帆子 <令和7年4月> 博士(人間科学)	質的調査法 社会保障論 障害の特性と理解 ※ 障害社会学 ダイバーシティの理解 教育とダイバーシティ 社会福祉学 盲ろう者の理解と支援 視覚障害当事者研究1 ※ 視覚障害当事者研究2 ※ 視覚障害当事者研究3 ※ 共生社会創成プロジェクト実習 共生社会創成特別研究1 共生社会創成特別研究2
基(主専)	准教授	金堀 利洋 <令和7年4月> 博士(数理学)	情報基礎1 情報基礎演習1 情報基礎2 情報基礎演習2 アクセシブルドキュメント ※ アクセシブルモデリング 共生社会創成特別研究1 共生社会創成特別研究2	基(主専)	准教授	金堀 利洋 <令和7年4月> 博士(数理学)	情報基礎1 情報基礎演習1 情報基礎2 情報基礎演習2 アクセシブルドキュメント ※ アクセシブルモデリング 共生社会創成特別研究1 共生社会創成特別研究2
基(主専)	准教授	小林(清水)ゆきの <令和7年4月> 博士(言語学)	言語学概論【視覚】 英語A【視覚】 英語B【視覚】 英語C【視覚】 英語D【視覚】 専門英語1【視覚】 専門英語2【視覚】 諸外国の障害者と文化・社会・生活 ※ 共生社会創成特別研究1 共生社会創成特別研究2	基(主専)	准教授	小林(清水)ゆきの <令和7年4月> 博士(言語学)	言語学概論【視覚】 英語A【視覚】 英語B【視覚】 英語C【視覚】 英語D【視覚】 専門英語1【視覚】 専門英語2【視覚】 諸外国の障害者と文化・社会・生活 ※ 共生社会創成特別研究1 共生社会創成特別研究2

教員区分	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名		担当授業科目名
基(主)準	准教授	武田 直樹 <令和7年4月> 修士(教育学)	准教授	武田 直樹 <令和7年4月> 修士(教育学)
		インターンシップ 共生社会演習1 共生社会演習2 共生社会創成プロジェクト実習A 共生社会創成プロジェクト実習B 共生社会創成プロジェクト実習C 共生社会創成特別研究1 共生社会創成特別研究2		インターンシップ 共生社会演習1 共生社会演習2 共生社会創成プロジェクト実習A 共生社会創成プロジェクト実習B 共生社会創成プロジェクト実習C 共生社会創成特別研究1 共生社会創成特別研究2
基(主)準	准教授	田中 仁 <令和7年4月> 博士(理学)	准教授	田中 仁 <令和7年4月> 博士(理学)
		数学基礎【視覚】 社会統計学A【視覚】 社会統計学B【視覚】 手話・点字と障害支援技術 点字の理論と実態 障害補償演習1 障害補償演習2 視覚障害当事者研究1 視覚障害当事者研究2 視覚障害当事者研究3 共生社会創成特別研究1 共生社会創成特別研究2		数学基礎【視覚】 社会統計学A【視覚】 社会統計学B【視覚】 手話・点字と障害支援技術 点字の理論と実態 障害補償演習1 障害補償演習2 視覚障害当事者研究1 視覚障害当事者研究2 視覚障害当事者研究3 共生社会創成特別研究1 共生社会創成特別研究2
基(主)準	准教授	宮城(田谷) 愛美 <令和7年4月> 博士(工学)	准教授	宮城(田谷) 愛美 <令和7年4月> 博士(工学)
		修学基礎【視覚】 盲ろう者の理解と支援 視覚障害学概論 ※ 障害補償演習1 障害補償演習2 ヒューマンインタフェース【視覚】 情報アクセシビリティ 情報アクセシビリティ演習 障害者サポート技法 アクセシブルドキュメント ※ 共生社会創成プロジェクト実習C 共生社会創成特別研究1 共生社会創成特別研究2		修学基礎【視覚】 盲ろう者の理解と支援 視覚障害学概論 ※ 障害補償演習1 障害補償演習2 ヒューマンインタフェース【視覚】 情報アクセシビリティ 情報アクセシビリティ演習 障害者サポート技法 アクセシブルドキュメント ※ 共生社会創成プロジェクト実習C 共生社会創成特別研究1 共生社会創成特別研究2
基(主)準	講師	磯田 恭子 <令和7年4月> 修士(保健学)	講師	磯田 恭子 <令和7年4月> 修士(保健学)
		盲ろう者の理解と支援 セルフアドボカシー演習 共生社会演習1 共生社会創成特別研究1 共生社会創成特別研究2		盲ろう者の理解と支援 セルフアドボカシー演習 共生社会演習1 共生社会創成特別研究1 共生社会創成特別研究2
基(主)準	助教	向後 佑香 <令和7年4月> 修士(体育学)	助教	向後 佑香 <令和7年4月> 修士(体育学)
		修学基礎【聴覚】 健康・スポーツA【聴覚】 健康・スポーツB【聴覚】※ 健康・スポーツC【聴覚】 健康・スポーツD【聴覚】 シーズンスポーツA【聴覚】 シーズンスポーツB【聴覚】 障害者スポーツ 共生社会演習2 共生社会創成プロジェクト実習C 共生社会創成特別研究1 共生社会創成特別研究2		修学基礎【聴覚】 健康・スポーツA【聴覚】 健康・スポーツB【聴覚】※ 健康・スポーツC【聴覚】 健康・スポーツD【聴覚】 シーズンスポーツA【聴覚】 シーズンスポーツB【聴覚】 障害者スポーツ 共生社会演習2 共生社会創成プロジェクト実習C 共生社会創成特別研究1 共生社会創成特別研究2
基(主)準	講師	小林 洋子 <令和7年4月> 博士(コミュニケーション科学)	講師	小林 洋子 <令和7年4月> 博士(コミュニケーション科学)
		修学基礎【聴覚】 手話コミュニケーション入門 日本手話言語基礎 手話コミュニケーション演習 アメリカ手話言語1 アメリカ手話言語2 異文化コミュニケーション【聴覚】 ダイバーシティの理解 諸外国の障害者と文化・社会・生活 ※ ろう・難聴者の社会参加 ライフキャリア 視覚言語表現技法 共生社会創成特別研究1 共生社会創成特別研究2		修学基礎【聴覚】 手話コミュニケーション入門 日本手話言語基礎 手話コミュニケーション演習 アメリカ手話言語1 アメリカ手話言語2 異文化コミュニケーション【聴覚】 ダイバーシティの理解 諸外国の障害者と文化・社会・生活 ※ ろう・難聴者の社会参加 ライフキャリア 視覚言語表現技法 共生社会創成特別研究1 共生社会創成特別研究2
基(主)準	講師	嶋 俊樹 <令和7年4月> 修士(教育学)	講師	嶋 俊樹 <令和7年4月> 修士(教育学)
		教育とダイバーシティ 手話・点字と障害支援技術 障害補償演習1 障害補償演習2 共生社会創成プロジェクト実習A 共生社会創成特別研究1 共生社会創成特別研究2		教育とダイバーシティ 手話・点字と障害支援技術 障害補償演習1 障害補償演習2 共生社会創成プロジェクト実習A 共生社会創成特別研究1 共生社会創成特別研究2
基(主)準	講師	中島(熊谷) 亜紀子 <令和7年4月> 修士(教育学)	講師	中島(熊谷) 亜紀子 <令和7年4月> 修士(教育学)
		セルフアドボカシー演習 共生社会創成プロジェクト実習B 共生社会創成特別研究1 共生社会創成特別研究2		セルフアドボカシー演習 共生社会創成プロジェクト実習B 共生社会創成特別研究1 共生社会創成特別研究2
基(主)準	講師	萩原 彩子 <令和7年4月> 学士(学校教育学)	講師	萩原 彩子 <令和7年4月> 学士(学校教育学)
		諸外国の障害者と文化・社会・生活 ※ セルフアドボカシー演習 共生社会創成プロジェクト実習A 共生社会創成特別研究1 共生社会創成特別研究2		諸外国の障害者と文化・社会・生活 ※ セルフアドボカシー演習 共生社会創成プロジェクト実習A 共生社会創成特別研究1 共生社会創成特別研究2

教員区分	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担任授業科目名	教員区分	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担任授業科目名
基(主専)	助教	神村 幸蔵 <令和7年4月> 博士(言語学)	神村 幸蔵	基(主専)	助教	神村 幸蔵 <令和7年4月> 博士(言語学)	神村 幸蔵
		修学基礎【聴覚】 言語学概論【聴覚】 英語A【聴覚】 英語B【聴覚】 英語C【聴覚】 英語D【聴覚】 日本語表現法A【聴覚】※ 日本語表現法B【聴覚】※ 専門英語1【聴覚】 専門英語2【聴覚】 共生社会創成特別研究1 共生社会創成特別研究2	修学基礎【聴覚】 言語学概論【聴覚】 英語A【聴覚】 英語B【聴覚】 英語C【聴覚】 英語D【聴覚】 日本語表現法A【聴覚】※ 日本語表現法B【聴覚】※ 専門英語1【聴覚】 専門英語2【聴覚】 共生社会創成特別研究1 共生社会創成特別研究2				
基(他)	教授	谷 貴幸 <令和7年4月> 博士(工学)	谷 貴幸	基(他)	教授	谷 貴幸 <令和7年4月> 博士(工学)	谷 貴幸
		プログラミング基礎【視覚】 プログラミング基礎【聴覚】 共生社会創成特別研究1 共生社会創成特別研究2	プログラミング基礎【視覚】 プログラミング基礎【聴覚】 共生社会創成特別研究1 共生社会創成特別研究2			プログラミング基礎【視覚】 プログラミング基礎【聴覚】 共生社会創成特別研究1 共生社会創成特別研究2	プログラミング基礎【視覚】 プログラミング基礎【聴覚】 共生社会創成特別研究1 共生社会創成特別研究2
基(他)	教授	河野 純大 <令和7年4月> 博士(学術)	河野 純大	基(他)	教授	河野 純大 <令和7年4月> 博士(学術)	河野 純大
		情報と社会環境【聴覚】※ 情報リテラシー ※ 情報基礎論A ※ 情報基礎論・演習B ※ 社会統計学A【聴覚】 共生社会と支援 ※ ヒューマンインタフェース【聴覚】※ 支援技術学論 支援技術学演習 共生社会創成特別研究1 共生社会創成特別研究2	情報と社会環境【聴覚】※ 情報リテラシー ※ 情報基礎論A ※ 情報基礎論・演習B ※ 社会統計学A【聴覚】 共生社会と支援 ※ ヒューマンインタフェース【聴覚】※ 支援技術学論 支援技術学演習 共生社会創成特別研究1 共生社会創成特別研究2				
基(他)	准教授	河原 正治 <令和7年4月> 博士(理学)	河原 正治	基(他)	准教授	河原 正治 <令和7年4月> 博士(理学)	河原 正治
		情報基礎1 情報基礎演習1 情報基礎2 情報基礎演習2 情報社会と情報倫理【視覚】 ウェブテクノロジーとセキュリ ティ【視覚】 社会システム評価設計論	情報基礎1 情報基礎演習1 情報基礎2 情報基礎演習2 情報社会と情報倫理【視覚】 ウェブテクノロジーとセキュリ ティ【視覚】 社会システム評価設計論				
その他	講師	河原 正治 <令和10年4月> 博士(理学)	河原 正治	その他	講師	河原 正治 <令和10年4月> 博士(理学)	河原 正治
		情報基礎1 情報基礎演習1 情報基礎2 情報基礎演習2 情報社会と情報倫理【視覚】 ウェブテクノロジーとセキュリ ティ【視覚】 社会システム評価設計論 教育支援工学	情報基礎1 情報基礎演習1 情報基礎2 情報基礎演習2 情報社会と情報倫理【視覚】 ウェブテクノロジーとセキュリ ティ【視覚】 社会システム評価設計論 教育支援工学				
その他	教授	小林 真 <令和7年4月> 博士(工学)	小林 真	その他	教授	小林 真 <令和7年4月> 博士(工学)	小林 真
		異文化コミュニケーション 諸外国の障害者と文化・社会・ 生活 ※ プログラミング基礎【視覚】	異文化コミュニケーション 諸外国の障害者と文化・社会・ 生活 ※ プログラミング基礎【視覚】				
その他	教授	嶋村 幸仁 <令和7年4月> 博士(経営情報学)	嶋村 幸仁	その他	教授	嶋村 幸仁 <令和7年4月> 博士(経営情報学)	嶋村 幸仁
		環境マネジメント ※	環境マネジメント ※				
その他	教授	関田 巖 <令和7年4月> 工学博士	関田 巖	その他	教授	関田 巖 <令和7年4月> 工学博士	関田 巖
		移動支援工学演習	移動支援工学演習				
その他	講師	石川 充英 <令和8年4月> 工学修士	石川 充英	その他	講師	石川 充英 <令和8年4月> 工学修士	石川 充英
		移動支援工学演習	移動支援工学演習				
その他	教授	竹下 浩 <令和7年4月> 博士(経営管理)	竹下 浩	その他	教授	竹下 浩 <令和7年4月> 博士(経営管理)	竹下 浩
		心理学【視覚】 視覚障害者社会参加論	心理学【視覚】 視覚障害者社会参加論				
その他	教授	中島 幸則 <令和7年4月> 博士(医学)	中島 幸則	その他	教授	中島 幸則 <令和7年4月> 博士(医学)	中島 幸則
		修学基礎【聴覚】 健康・スポーツA【聴覚】 健康・スポーツB【聴覚】 健康・スポーツC【聴覚】 健康・スポーツD【聴覚】 シーズンスポーツA【聴覚】 シーズンスポーツB【聴覚】 障害者スポーツ	修学基礎【聴覚】 健康・スポーツA【聴覚】 健康・スポーツB【聴覚】 健康・スポーツC【聴覚】 健康・スポーツD【聴覚】 シーズンスポーツA【聴覚】 シーズンスポーツB【聴覚】 障害者スポーツ				
その他	講師	中島 幸則 <令和10年4月> 博士(医学)	中島 幸則	その他	講師	中島 幸則 <令和10年4月> 博士(医学)	中島 幸則
		修学基礎【聴覚】 健康・スポーツA【聴覚】 健康・スポーツB【聴覚】 健康・スポーツC【聴覚】 健康・スポーツD【聴覚】 シーズンスポーツA【聴覚】 シーズンスポーツB【聴覚】 障害者スポーツ	修学基礎【聴覚】 健康・スポーツA【聴覚】 健康・スポーツB【聴覚】 健康・スポーツC【聴覚】 健康・スポーツD【聴覚】 シーズンスポーツA【聴覚】 シーズンスポーツB【聴覚】 障害者スポーツ				

教員区分	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名		担当授業科目名
その他	教授	三浦 美佐 <令和7年4月> 博士(医学)	その他	三浦 美佐 <令和7年4月> 博士(医学)
		障害者生活環境論【視覚】※ 障害者生活環境論【聴覚】※		障害者生活環境論【視覚】※ 障害者生活環境論【聴覚】※
その他	教授	皆川 洋喜 <令和7年4月> 博士(工学)	その他	皆川 洋喜 <令和7年4月> 博士(工学)
		情報と社会環境【聴覚】※ データ解析法演習 情報基礎論A ※ 情報基礎論・演習B ※ ヒューマンインタフェース【聴覚】※ 支援技術学論 ※ 支援技術学演習 ※		情報と社会環境【聴覚】※ データ解析法演習 情報基礎論A ※ 情報基礎論・演習B ※ ヒューマンインタフェース【聴覚】※ 支援技術学論 ※ 支援技術学演習 ※
その他	教授	山脇 博紀 <令和7年4月> 博士(工学)	その他	山脇 博紀 <令和7年4月> 博士(工学)
		情報と社会環境【聴覚】※ 障害者生活環境論【視覚】※ 障害者生活環境論【聴覚】※ 支援技術学論 ※ 支援技術学演習 ※		情報と社会環境【聴覚】※ 障害者生活環境論【視覚】※ 障害者生活環境論【聴覚】※ 支援技術学論 ※ 支援技術学演習 ※
その他	准教授	天野 和彦 <令和7年4月> 体育学修士	その他	天野 和彦 <令和7年4月> 体育学修士
		健康・スポーツA【視覚】 健康・スポーツB【視覚】 健康・スポーツC【視覚】 健康・スポーツD【視覚】 シーズンスポーツA【視覚】 シーズンスポーツA【聴覚】 シーズンスポーツB【視覚】 シーズンスポーツB【聴覚】		健康・スポーツA【視覚】 健康・スポーツB【視覚】 健康・スポーツC【視覚】 健康・スポーツD【視覚】 シーズンスポーツA【視覚】 シーズンスポーツA【聴覚】 シーズンスポーツB【視覚】 シーズンスポーツB【聴覚】
その他	准教授	井口 正樹 <令和7年4月> 博士(Physical Therapy Science)	その他	井口 正樹 <令和7年4月> 博士(Physical Therapy Science)
		諸外国の障害者と文化・社会・生活 ※		諸外国の障害者と文化・社会・生活 ※
その他	准教授	梅本 舞子 <令和7年4月> 博士(工学)	その他	梅本 舞子 <令和7年4月> 博士(工学)
		障害者生活環境論【視覚】※ 障害者生活環境論【聴覚】※ 支援技術学論 ※ 支援技術学演習 ※		障害者生活環境論【視覚】※ 障害者生活環境論【聴覚】※ 支援技術学論 ※ 支援技術学演習 ※
その他	准教授	鶴見(牛島) 昌代 <令和7年4月> 博士(工学)	その他	鶴見(牛島) 昌代 <令和7年4月> 博士(工学)
		音声ユーザインタフェース		音声ユーザインタフェース
その他	准教授	堀江 則之 <令和7年4月> 博士(総合情報学)	その他	堀江 則之 <令和7年4月> 博士(総合情報学)
		情報と社会環境【視覚】 環境マネジメント ※ 業務研究		情報と社会環境【視覚】 環境マネジメント ※ 業務研究
その他	講師	伊藤 精英 <令和9年4月> 博士(教育学)	その他	伊藤 精英 <令和9年4月> 博士(教育学)
		共生社会と支援 ※		共生社会と支援 ※
その他	講師	大村 美保 <令和9年4月> 博士(社会福祉学)	その他	大村 美保 <令和9年4月> 博士(社会福祉学)
		社会福祉学		社会福祉学
その他	講師	大森 真理 <令和7年4月> 博士(教育学)	その他	大森 真理 <令和7年4月> 博士(教育学)
		中国語1 中国語2		中国語1 中国語2
その他	講師	岡田 大助 <令和7年4月> 修士(学術)	その他	岡田 大助 <令和7年4月> 修士(学術)
		法律学 日本国憲法		法律学 日本国憲法
その他	講師	堀野内 将貴 <令和7年4月> 修士(理学)	その他	堀野内 将貴 <令和7年4月> 修士(理学)
		数学基礎【視覚】		数学基礎【視覚】
その他	講師	上岡 陽江 <令和7年4月> 高等学校卒	その他	上岡 陽江 <令和7年4月> 高等学校卒
		障害の特性と理解 ※		障害の特性と理解 ※
その他	講師	川井 博義 <令和7年4月> 博士(文学)	その他	川井 博義 <令和7年4月> 博士(文学)
		哲学【視覚】		哲学【視覚】
その他	講師	納川 麻理 <令和9年4月> 博士(工学)	その他	納川 麻理 <令和9年4月> 博士(工学)
		共生社会と支援 ※		共生社会と支援 ※

教員 区分	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名		担当授業科目名
その他	講師	Catherine Vivar Oda <令和7年4月> 修士(地域研究)	講師	Catherine Vivar Oda <令和7年4月> 修士(地域研究)
		オーラルコミュニケーションA オーラルコミュニケーションB オーラルコミュニケーションC オーラルコミュニケーションD		オーラルコミュニケーションA オーラルコミュニケーションB オーラルコミュニケーションC オーラルコミュニケーションD
その他	講師	桑原 教彰 <令和9年4月> 博士(工学)	講師	桑原 教彰 <令和9年4月> 博士(工学)
		共生社会と支援 ※		共生社会と支援 ※
その他	講師	篠塚 友一 <令和7年4月> Ph. D (Economics)	講師	篠塚 友一 <令和7年4月> Ph. D (Economics)
		経済学		経済学
その他	講師	志磨村(仲井) 早紀 <令和9年4月> 学士(人間科学)	講師	志磨村(仲井) 早紀 <令和9年4月> 学士(人間科学)
		共生社会と支援 ※		共生社会と支援 ※
その他	講師	庄司 俊之 <令和7年4月> 修士(社会学)	講師	庄司 俊之 <令和7年4月> 修士(社会学)
		社会学		社会学
その他	講師	末吉(真壁) 彩香 <令和7年4月> 博士(障害科学)	講師	末吉(真壁) 彩香 <令和7年4月> 博士(障害科学)
		障害の特性と理解 ※		障害の特性と理解 ※
その他	講師	鈴木 拓人 <令和7年4月> 修士(教育学)	講師	鈴木 拓人 <令和7年4月> 修士(教育学)
		社会調査論 質的調査法 社会シミュレーション 教育支援工学		社会調査論 質的調査法 社会シミュレーション 教育支援工学
その他	講師	高野(河野) 友理香 <令和7年4月> 修士(文学)	講師	高野(河野) 友理香 <令和7年4月> 修士(文学)
		歴史学		歴史学
その他	講師	竹内 義則 <令和9年4月> 博士(工学)	講師	竹内 義則 <令和9年4月> 博士(工学)
		共生社会と支援 ※		共生社会と支援 ※
その他	講師	田中 久弥 <令和9年4月> 博士(工学)	講師	田中 久弥 <令和9年4月> 博士(工学)
		共生社会と支援 ※		共生社会と支援 ※
その他	講師	南部 允央 <令和9年4月> 高等学校卒	講師	南部 允央 <令和9年4月> 高等学校卒
		共生社会と支援 ※		共生社会と支援 ※
その他	講師	布川 清彦 <令和9年4月> 博士(工学)	講師	布川 清彦 <令和9年4月> 博士(工学)
		共生社会と支援 ※		共生社会と支援 ※
その他	講師	福永 克己 <令和7年4月> 博士(工学)	講師	Viktoriya Nikolova <令和7年4月> 修士(学術)
		情報科学概論【視覚】 データベース基礎と検索技術 【視覚】		その他 講師 オーラルコミュニケーション A オーラルコミュニケーション B
その他	講師	福永 克己 <令和7年4月> 博士(工学)	講師	福永 克己 <令和7年4月> 博士(工学)
		情報科学概論【視覚】 データベース基礎と検索技術 【視覚】		情報科学概論【視覚】 データベース基礎と検索技術 【視覚】
その他	講師	船越 高樹 <令和9年4月> 修士(環境学、教育学)	講師	船越 高樹 <令和9年4月> 修士(環境学、教育学)
		共生社会と支援 ※		共生社会と支援 ※
その他	講師	別府(前田) あかね <令和9年4月> 学士(家政学)	講師	別府(前田) あかね <令和9年4月> 学士(家政学)
		盲ろう者の理解と支援 ※		盲ろう者の理解と支援 ※
その他	講師	森 敦史 <令和9年4月> 修士(情報保障学)	講師	森 敦史 <令和9年4月> 修士(情報保障学)
		共生社会と支援 ※		共生社会と支援 ※

教員 区分	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	教員 区分	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
その他	講師	山森 一希 <令和7年4月> 修士(障害科学)	その他	講師	山森 一希 <令和7年4月> 修士(障害科学)
		障害の特性と理解 ※			障害の特性と理解 ※
その他	講師	吉川 かおり <令和7年4月> 博士(社会福祉学)	その他	講師	吉川 かおり <令和7年4月> 博士(社会福祉学)
		障害の特性と理解 ※			障害の特性と理解 ※
その他	講師	渡辺 哲也 <令和9年4月> 博士(工学)	その他	講師	渡辺 哲也 <令和9年4月> 博士(工学)
		共生社会と支援 ※			共生社会と支援 ※
その他	助教	松尾 政輝 <令和7年4月> 博士(工学)	その他	助教	松尾 政輝 <令和7年4月> 博士(工学)
		アルゴリズムとデータ構造【視 覚】 授業障害当事者研究1 ※ 授業障害当事者研究2 ※ 授業障害当事者研究3 ※			アルゴリズムとデータ構造【視 覚】 授業障害当事者研究1 ※ 授業障害当事者研究2 ※ 授業障害当事者研究3 ※
その他	教授	井上 征矢 <令和7年4月> 博士(デザイン学)	その他	教授	井上 征矢 <令和7年4月> 博士(デザイン学)
		情報リテラシー ※			情報リテラシー ※
その他	教授	大杉 豊 <令和7年4月> Doctor of Philosophy(米国)	その他	教授	大杉 豊 <令和7年4月> Doctor of Philosophy(米国)
		日本語言語基礎 アメリカ手話言語1 アメリカ手話言語2 ろう・難聴者の社会参加 ろう・難聴者を取り巻く社会資 源 ※ 視覚言語表現技法			日本語言語基礎 アメリカ手話言語1 アメリカ手話言語2 ろう・難聴者の社会参加 ろう・難聴者を取り巻く社会資 源 ※ 視覚言語表現技法
その他	講師	大杉 豊 <令和10年4月> Doctor of Philosophy(米国)	その他	講師	大杉 豊 <令和10年4月> Doctor of Philosophy(米国)
		日本語言語基礎 アメリカ手話言語1 アメリカ手話言語2 ろう・難聴者の社会参加 ろう・難聴者を取り巻く社会資 源 ※ 視覚言語表現技法			日本語言語基礎 アメリカ手話言語1 アメリカ手話言語2 ろう・難聴者の社会参加 ろう・難聴者を取り巻く社会資 源 ※ 視覚言語表現技法
その他	教授	郭 龍晏 <令和7年4月> 博士(感性科学)	その他	教授	郭 龍晏 <令和7年4月> 博士(感性科学)
		情報と社会環境【聴覚】※			情報と社会環境【聴覚】※
その他	教授	加藤(田中) 伸子 <令和7年4月> 博士(工学)	その他	教授	加藤(田中) 伸子 <令和7年4月> 博士(工学)
		情報と社会環境【聴覚】※ 情報科学概論【聴覚】※ ヒューマンインタフェース【聴 覚】※ 支援技術学論 ※ 支援技術学演習 ※ 情報保護技術学・演習 ※			情報と社会環境【聴覚】※ 情報科学概論【聴覚】※ ヒューマンインタフェース【聴 覚】※ 支援技術学論 ※ 支援技術学演習 ※ 情報保護技術学・演習 ※
その他	教授	黒木 速人 <令和7年4月> 博士(工学)	その他	教授	黒木 速人 <令和7年4月> 博士(工学)
		情報と社会環境【聴覚】※ 情報科学概論【聴覚】※			情報と社会環境【聴覚】※ 情報科学概論【聴覚】※
その他	教授	倉田 成人 <令和7年4月> 博士(工学)	その他	教授	倉田 成人 <令和7年4月> 博士(工学)
		情報と社会環境【聴覚】※			情報と社会環境【聴覚】※
その他	講師	倉田 成人 <令和9年4月> 博士(工学)	その他	講師	倉田 成人 <令和9年4月> 博士(工学)
		情報と社会環境【聴覚】※			情報と社会環境【聴覚】※
その他	教授	下笠 賢二 <令和7年4月> 修士(工学)	その他	教授	下笠 賢二 <令和7年4月> 修士(工学)
		支援技術学論 ※ 支援技術学演習 ※			支援技術学論 ※ 支援技術学演習 ※
その他	教授	鈴木 拓弥 <令和7年4月> 博士(工学)	その他	教授	鈴木 拓弥 <令和7年4月> 博士(工学)
		情報と社会環境【聴覚】※ 情報リテラシー ※			情報と社会環境【聴覚】※ 情報リテラシー ※

教員 区分	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名		担当授業科目名
その他	教授	長南 浩人 <令和7年4月> 博士(心身障害学)	教授	長南 浩人 <令和7年4月> 博士(心身障害学)
		心理学【聴覚】		心理学【聴覚】
その他	講師	長南 浩人 <令和10年4月> 博士(心身障害学)	講師	長南 浩人 <令和10年4月> 博士(心身障害学)
		心理学【聴覚】		心理学【聴覚】
その他	教授	西岡 知之 <令和7年4月> 博士(工学)	教授	西岡 知之 <令和7年4月> 博士(工学)
		情報数理 情報社会と情報倫理【聴覚】 情報科学概論【聴覚】 ウェブテクノロジーとセキュリ ティ【聴覚】 ヒューマンインタフェース【聴 覚】※		情報数理 情報社会と情報倫理【聴覚】 情報科学概論【聴覚】 ウェブテクノロジーとセキュリ ティ【聴覚】 ヒューマンインタフェース【聴 覚】※
その他	教授	平賀 瑞美 <令和7年4月> 博士(工学)	教授	平賀 瑞美 <令和7年4月> 博士(工学)
		情報科学概論【聴覚】※		情報科学概論【聴覚】※
その他	講師	平賀 瑞美 <令和8年4月> 博士(工学)	講師	平賀 瑞美 <令和8年4月> 博士(工学)
		情報科学概論【聴覚】※		情報科学概論【聴覚】※
その他	教授	劉 賢国 <令和7年4月> 博士(芸術工学)	教授	劉 賢国 <令和7年4月> 博士(芸術工学)
		支援技術学論 ※ 支援技術学演習 ※		支援技術学論 ※ 支援技術学演習 ※
その他	講師	劉 賢国 <令和9年4月> 博士(芸術工学)	講師	劉 賢国 <令和9年4月> 博士(芸術工学)
		支援技術学論 ※ 支援技術学演習 ※		支援技術学論 ※ 支援技術学演習 ※
その他	教授	若月 大輔 <令和7年4月> 博士(工学)	教授	若月 大輔 <令和7年4月> 博士(工学)
		情報と社会環境【聴覚】※ 情報科学概論【聴覚】※ 支援技術学論 ※ 支援技術学演習 ※ 情報保障技術学・演習 ※ デジタル画像処理【兩年】		情報と社会環境【聴覚】※ 情報科学概論【聴覚】※ 支援技術学論 ※ 支援技術学演習 ※ 情報保障技術学・演習 ※ デジタル画像処理【兩年】
その他	准教授	伊藤 三千代 <令和7年4月> 芸術学士	准教授	伊藤 三千代 <令和7年4月> 芸術学士
		支援技術学論 ※ 支援技術学演習 ※		支援技術学論 ※ 支援技術学演習 ※
その他	講師	伊藤 三千代 <令和10年4月> 芸術学士	講師	伊藤 三千代 <令和10年4月> 芸術学士
		支援技術学論 ※ 支援技術学演習 ※		支援技術学論 ※ 支援技術学演習 ※
その他	准教授	稲葉 基 <令和7年4月> 博士(工学)	教授	稲葉 基 <令和7年4月> 博士(工学)
		情報科学概論【聴覚】※		情報科学概論【聴覚】※
その他	准教授	今井 計 <令和7年4月> 修士(工学)	准教授	今井 計 <令和7年4月> 修士(工学)
		支援技術学演習 ※		支援技術学演習 ※
その他	准教授	大塚 和彦 <令和7年4月> 博士(工学)	准教授	大塚 和彦 <令和7年4月> 博士(工学)
		情報科学概論【聴覚】※		情報科学概論【聴覚】※
その他	准教授	櫻庭(古谷) 晶子 <令和7年4月> 博士(工学)	准教授	櫻庭(古谷) 晶子 <令和7年4月> 博士(工学)
		情報と社会環境【聴覚】※ 支援技術学論 ※		情報と社会環境【聴覚】※ 支援技術学論 ※

教員区分	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	教員区分	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
その他	講師	櫻庭(古谷)晶子 <令和9年4月> 博士(工学)	その他	講師	櫻庭(古谷)晶子 <令和9年4月> 博士(工学)
		情報と社会環境【聴覚】※ 支援技術学論 ※			情報と社会環境【聴覚】※ 支援技術学論 ※
その他	准教授	白石 優旗 <令和7年4月> 博士(情報科学)	その他	教授	白石 優旗 <令和7年4月> 博士(情報科学)
		情報科学概論【聴覚】※ 情報保障技術学・演習 ※			情報科学概論【聴覚】※ 情報保障技術学・演習 ※
その他	准教授	安 啓一 <令和7年4月> 博士(工学)	その他	准教授	安 啓一 <令和7年4月> 博士(工学)
		聴覚科学 情報科学概論【聴覚】※ 情報保障技術学・演習 ※			聴覚科学 情報科学概論【聴覚】※ 情報保障技術学・演習 ※
その他	准教授	脇中 起余子 <令和7年4月> 博士(教育学)	その他	准教授	脇中 起余子 <令和7年4月> 博士(教育学)
		修学基礎【聴覚】 日本語表現法A【聴覚】※ 日本語表現法B【聴覚】※			修学基礎【聴覚】 日本語表現法A【聴覚】※ 日本語表現法B【聴覚】※
その他	講師	脇中 起余子 <令和8年4月> 博士(教育学)	その他	講師	脇中 起余子 <令和8年4月> 博士(教育学)
		修学基礎【聴覚】 日本語表現法A【聴覚】※ 日本語表現法B【聴覚】※ 日本語社会とコミュニケーション			修学基礎【聴覚】 日本語表現法A【聴覚】※ 日本語表現法B【聴覚】※ 日本語社会とコミュニケーション
その他	准教授	渡辺(天笠)知恵美 <令和7年4月> 博士(理学)	その他	准教授	渡辺(天笠)知恵美 <令和7年4月> 博士(理学)
		情報と社会環境【聴覚】※ 情報科学概論【聴覚】※ データベース基礎と検索技術【聴覚】 アルゴリズムとデータ構造【聴覚】			情報と社会環境【聴覚】※ 情報科学概論【聴覚】※ データベース基礎と検索技術【聴覚】 アルゴリズムとデータ構造【聴覚】
その他	講師	上田 徹 <令和7年4月> 博士(文学)	その他	講師	上田 徹 <令和7年4月> 博士(文学)
		哲学【聴覚】			哲学【聴覚】
その他	講師	後藤 由紀子 <令和8年4月> 博士(リハビリテーション科学)	その他	講師	後藤 由紀子 <令和8年4月> 博士(リハビリテーション科学)
		障害者の就労と社会【聴覚】 聴覚障害と就労 ライフキャリア			障害者の就労と社会【聴覚】 聴覚障害と就労 ライフキャリア
その他	講師	齊藤 まゆみ <令和8年4月> 博士(スポーツ医学)	その他	講師	齊藤 まゆみ <令和8年4月> 博士(スポーツ医学)
		健康・スポーツD			健康・スポーツD
その他	講師	高山 亨太 <令和8年4月> 博士(社会福祉学)	その他	講師	高山 亨太 <令和8年4月> 博士(社会福祉学)
		ろう・難聴者を取り巻く社会資源 ※			ろう・難聴者を取り巻く社会資源 ※
その他	准教授	西岡 仁也 <令和7年4月> 修士(美術)	その他	准教授	西岡 仁也 <令和7年4月> 修士(美術)
		Webデザイン論 Webデザイン演習			Webデザイン論 Webデザイン演習
その他	講師	米山 文雄 <令和7年4月> 工学士	その他	講師	米山 文雄 <令和7年4月> 工学士
		情報科学概論【聴覚】※			情報科学概論【聴覚】※
その他	講師	米山 文雄 <令和8年4月> 工学士	その他	講師	米山 文雄 <令和8年4月> 工学士
		情報科学概論【聴覚】※			情報科学概論【聴覚】※
その他	助教	菊地 浩平 <令和7年4月> 博士(学術)	その他	助教	菊地 浩平 <令和7年4月> 博士(学術)
		社会統計学B【聴覚】 ろう・難聴者を取り巻く社会資源 ※ 情報科学概論【聴覚】※ 情報保障技術学・演習 ※			社会統計学B【聴覚】 ろう・難聴者を取り巻く社会資源 ※ 情報科学概論【聴覚】※ 情報保障技術学・演習 ※
その他	助教	北橋 主税 <令和7年4月> 修士(デザイン学)	その他	助教	北橋 主税 <令和7年4月> 修士(デザイン学)
		情報と社会環境【聴覚】※			情報と社会環境【聴覚】※

教員 区分	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	教員 区分	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
その他	助教	鍾 穎 <令和7年4月> 博士(人間情報学)	その他	助教	鍾 穎 <令和7年4月> 博士(人間情報学)
		情報科学概論【聴覚】※			情報科学概論【聴覚】※
その他	助教	田嶋 美雪 <令和7年4月> 修士(教育学)	その他	助教	田嶋 美雪 <令和7年4月> 修士(教育学)
		情報リテラシー ※			情報リテラシー ※
その他	助教	辻田 容希 <令和7年4月> 修士(工学)	その他	助教	辻田 容希 <令和7年4月> 修士(工学)
		情報と社会環境【聴覚】※			情報と社会環境【聴覚】※

(注) 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)(その2の2)(その2の3)に準じて作成してください。
なお、設置認可時又は届出時、改正前大学設置基準等(令和4年10月1日施行前)に基づき、対象学部等を設置している場合、改正後大学設置基準等(令和4年10月1日施行)の適用以前については、改正前様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
- 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教員名簿」を確認してください。
- 「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の教員全て(基幹教員(大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は「専任教員」)以外の教員(助手を除く)(改正後大学設置基準等の適用以前は兼任、兼任教員を含む。))を黒字で記入してください。
その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字**としてください。
- 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
- 記載は、設置認可時又は届出時における「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教員名簿」に記載されている「教員区分」(改正後大学設置基準等の適用以前は「専任等区分」)の順に記入してください。
- 改正後大学設置基準等(令和4年10月1日施行)の適用以降については、主要授業科目にあたる「担当授業科目名」に下線を引いてください。(大学院、高等専門学校は除く)
- 教員がサバティカル等で不在の期間がある場合、その期間(年月日)を上段「学位」の下へ記入してください。
- 不要な年度(令和6年度開設であれば令和5年度以前)の表は適宜削除してください。
- 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「担当授業科目名」の上段に変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目名を記入するとともに、下段に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目名を記入してください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和7年度】

- ・令和7年4月 Viktoriya Nikolova講師（教員区分：その他）就任。
- ・令和6年10月 稲葉基教授（教員区分：その他）准教授から昇任。
- ・令和7年4月 白石優旗教授（教員区分：その他）准教授から昇任。

(注) 変更内容を簡条書きまで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。

- ・ **認可で設置された学部等の基幹（専任）教員を変更する場合は**、当該基幹（専任）教員が授業を開始する前に必ず「基幹（専任）教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（A C教員審査）を受けてください。

原則としてA C教員審査を受けずに基幹（専任）教員として授業等を担当することは出来ません。

- なお、改正前大学設置基準等に基づいて認可を受けて設置された学部等が、改正後大学設置基準等への適用のため、大学が基幹教員の要件を満たすと判断した「専任教員」を「基幹教員」とする場合は、A C教員審査を受審する必要はない扱いとしています。（改正後大学設置基準等の適用にあたり、「基幹教員」の担当授業科目を追加する場合、「基幹教員」の担当授業科目の内容を変更するなど、A C教員審査の受審を求めている事由が発生する場合は、A C教員審査を受審する必要があります）
- ・ A C教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和6年度開設であれば令和5年度以前）の表は適宜削除してください。

(2) 基幹教員数等

(注) 計画の区分が「学部等連係課程実施基本組織（学科連係課程実施学科）の設置」の場合、大学設置基準第四十一条第二項（短期大学設置基準第三条の二）に基づく「連係協力学部等（連係協力学科）」の基幹教員数について、「(2)-① 設置基準上の必要基幹教員数」及び「(2)-② 基幹教員等数【大学】」を連係協力学部等（連係協力学科）ごとに別ファイルで作成してください。

(2)-① 設置基準上の必要基幹教員数

完成年度時における設置基準上の必要基幹教員数（α）	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数	うち、完成年度時における設置基準上の専ら当該学部等の教員研究に従事する必要基幹教員数（α）の4分の3以上
12	6	9
名	名	名

(注) 大学設置基準別表第一、短期大学設置基準別表第一、高等専門学校設置基準第六条第九項により算出される基幹教員数を記入してください。
 ・高等専門学校の場合、「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数」欄は「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授・准教授数として、高等専門学校設置基準第八条により算出される必要教授・准教授数を記入してください。

(2)-② 基幹教員等数【大学・高専】

設置時の計画							現在（報告時）の状況						
教授	准教授	講師	助教	計（A）	うち専ら当該学部等の教育研究に従事する者（「基（主専）」及び「基（専）」の計（A'）	助手（A''）	教授	准教授	講師	助教	計（B）	うち専ら当該学部等の教育研究に従事する者（「基（主専）」及び「基（専）」の計（B'）	助手（B''）
6	6	5	2	19	17	0	7	7	5	2	21	18	0
(7)	(7)	(5)	(2)	(21)	(18)	(0)							
現在（報告時）の完成年度時の状況							現在（報告時）の完成年度時の計画						
教授	准教授	講師	助教	計（C）	うち専ら当該学部等の教育研究に従事する者（「基（主専）」及び「基（専）」の計（C'）	助手（C''）	教授	准教授	講師	助教	計（D）	うち専ら当該学部等の教育研究に従事する者（「基（主専）」及び「基（専）」の計（D'）	助手（D''）
6	6	5	2	19	17	0	6	6	5	2	19	17	0
[±0]	[±0]	[±0]	[±0]	[±0]	[±0]	[±0]	[±0]	[±0]	[±0]	[±0]	[±0]	[±0]	[±0]

(注) 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 高等専門学校の場合、「うち専ら当該学部等の教育研究に従事する者（「基（主専）」及び「基（専）」の計）」欄は、「うち専ら当該高等専門学校の教育に従事する者（「基一」及び「基専」の計）」として記入してください。
 なお、設置認可時又は届出時、改正前大学設置基準（令和4年10月1日施行前）に基づき、対象学部等を設置している場合、「設置時の計画」欄は「設置時の計画（改正前大学設置基準等）」とした上で、「専任教員」及び「助手」の人数を記入してください。
 また、「計（A）」の「うち専ら当該学部等の教育研究に従事する者（「基（主専）」及び「基（専）」の計）」欄には「-」を記入してください。
 ・「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2)-③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告時（上記（B））の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記（C））の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65	0	0
歳	名	名

(注) 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二桁書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2)-④ 設置時の計画に対する教員充足率

【基幹教員全体】

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況（C）}}{\text{設置時の計画（A）}} = \frac{19}{19} = 100\%$$

【基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者】

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況（C'）}}{\text{設置時の計画（A'）}} = \frac{17}{17} = 100\%$$

(注) ・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況（B）}} = \frac{0}{21} = 0\%$$

(注) ・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況（C''）}}{\text{設置時の計画（A''）}} = \frac{0}{0} = -\%$$

(注) ・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 基幹（専任）教員辞任等の理由

(3) -① 基幹（専任）教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	基幹（専任）教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
合計（D）				後任補充状況の集計（E）						
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

(注)・認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての基幹（専任）教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。

- ・「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) -②基幹（専任）教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに基幹（専任）教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・基幹（専任）教員が担当する（している）場合は「①」
- ・基幹（専任）教員以外の教員（兼任兼担教員）が担当する（している）場合は「②」
- ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -② 基幹（専任）教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	基幹（専任）教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
合計（F）				後任補充状況の集計（G）						
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

(注)・一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての基幹（専任）教員について、記入してください。

- （学年進行中に基幹教員の要件を満たさなくなったことにより、基幹教員でなくなった教員についても記入してください。）
- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに基幹（専任）教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・基幹（専任）教員が担当する（している）場合は「①」
- ・基幹（専任）教員以外の教員（兼任兼担教員）が担当する（している）場合は「②」
- ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -③ 上記 (3) -① ・ (3) -② の合計

合計 (D) + (F)				後任補充状況の集計 (E) + (G)						
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{0}{19} = 0\%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 令和6年度報告書から、新たに辞任等した基幹（専任）教員等の状況

0人

(注)・(3) -①、(3) -②で赤字で記載した基幹（専任）教員数の合計数を記載してください。

- ・令和7年度開設の学科等の場合、(D) + (F) と同数を記載してください。

(3) 一⑥ 定年により退職した基幹（専任）教員に対する後任補充状況

番号	職位	基幹（専任）教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
合計				後任補充状況の集計					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0 人		必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注)・ 定年により退職した全ての基幹（専任）教員について、記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに基幹（専任）教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| ・基幹（専任）教員が担当する（している）場合は「①」 |
| ・基幹（専任）教員以外の教員（兼任兼担教員）が担当する（している）場合は「②」 |
| ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |

(4) 基幹（専任）教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

- (注)・ 上記（3）の基幹（専任）教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区分	附帯事項等	履行状況	今後の実施計画
認可時 (令和6年)	教育にふさわしい環境確保の観点から、アドミッション・ポリシーを踏まえた適切な入学選抜の実施に留意しつつ、設置計画における収容定員に見合った学生の確保に努めること。また、入学数等の状況に応じた収容定員の適切な規模について不断の検討を行うとともに、必要に応じて定員の見直しを図ること。	【意見伺い】遵守事項 設置計画書の提出後から、設置申請中であることを明記した上で、学生募集活動を展開した。具体的には、オープンキャンパスや特別支援学校などにおける説明会を開催したほか、視覚障害者や聴覚障害者が参加するイベントにも積極的に出展し、本学部の魅力を発信するとともに、受験希望者とのミスマッチを防ぐため、受験希望者からの質問等には丁寧に対応した。その結果、学部全体としては入学定員を上回る受験者があったが、アドミッション・ポリシーを踏まえた適切な入学選抜を実施した結果、合格者は各コースにおいて入学定員を1名ずつ下回る結果となった。(7)	【意見伺い】遵守事項 適切な入学選抜を実施しつつ入学定員を充足するには受験者を増やす必要がある。今後はこれまでに実施した学生募集活動をさらに活性化するとともに、特に令和7年度においては本学部が目指す共生社会を創成する人材養成の必要性や本学部の魅力を発信するシンポジウム等のイベントも実施する。本イベントを通じて、社会一般に共生社会を創成する人材養成の必要性を伝えるとともに、視覚障害者又は聴覚障害を有する生徒等が本学部への進学を目指してくれるよう魅力を発信し、収容定員に見合った学生を確保する。なお、これらの取組に注力しつつも、入学数等の状況を踏まえ、収容定員の適切な規模についても検討していく。(7)
認可時 (令和6年)	二以上の校地において教育を行うことから、学生及び教員の教育研究等に支障のないよう留意すること。また、学生の課外活動等にも配慮すること。	【意見伺い】遵守事項 本学は、聴覚障害又は視覚障害のある学生を受け入れ、聴覚障害、視覚障害それぞれに配慮されたキャンパスでの教育を実施してきた。本学部は、両障害学生を受け入れ、それぞれの障害に配慮されたキャンパスでの教育を中心としたことも、両障害学生がともに学ぶことでより教育効果が高められる授業は合同で実施することとしている。合同で授業を実施する際に一方の障害学生に支障が生じることがないように、合同授業を実施する教室に必要な改修を行うとともに、教員には両障害学生に対して適切な情報保障を行いながら教育が実施できるよう必要な研修を実施した。なお、キャンパス間の移動に際しても支障が生じることがないように公用車の手配等、必要な体制を整備した。また、課外活動については、各キャンパスでの同じ障害種の学生との交流も重要であるが、本学部が両障害学生を受け入れる学部であることを踏まえ、両障害学生が積極的に交流し、学部として一体感を持てるように、入学後の早い段階で交流会などを実施した。(7)	【意見伺い】遵守事項 学年進行に伴い、学生数の増加、教育内容の高度化が進む中で、事前に行った教室設備の改修や教員への研修が十分であったか不断の点検・改善を行い、学生の教育効果を高める取組みを継続していく。また、課外活動については、これまで中心であった各キャンパスにおける同じ障害種の学生との取組だけでなく、両障害学生を交えた取組、特に本学部の学生が中心となって大学全体を巻き込むような大きな取組が生まれるように、両障害学生の交流をさらに推進していく。(7)

(注)・「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・ 認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおり記載してください。

【令和6年度報告書から記載内容に変更がある場合】

令和6年度報告書の記載内容を転記し文末に「(6)」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(7)」と記載してください。

【令和6年度報告書から記載内容に変更がない場合】

令和6年度報告書の記載内容を転記し文末に「(6) (7)」と記載してください。

【令和7年度から新たに調査対象となった学科等又は令和6年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】

「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(7)」と記載してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入**してください。その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<共生社会創成学部 共生社会創成学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

(注)・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策(FD・SD活動含む)

① 実施体制

a 委員会の設置状況

- 1) 全学的には、FD・SD企画室において、FD・SDの企画、実施について審議を行っている。
- 2) 共生社会創成学部においては、令和6年度は新学部設置準備室会議において、令和7年度からは教授会相当の会議体である共生社会創成学部運営会議において、当該学部学生の教育のための教員の資質の維持向上の方策について検討を行っている。

b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む)

- 1) FD・SD企画室について、令和6年度は1回開催しており、9名の室員が出席している。
- 2) 新学部設置準備室会議及び共生社会創成学部運営会議について、令和6年度、令和7年度ともに月1回程度開催しており、毎回20名程度の構成員が出席している。

c 委員会の審議事項等

1) FD・SD企画室(FD・SD企画室規程第2条)

第2条 企画室において、次に掲げる事項を企画検討する。

- (1) 全学のFD(Faculty Development:教育改善のための教員研修)・SD(Staff Development:事務系職員
の資質向上のための研修)の企画立案及び実施に関する事項
- (2) FD・SDの在り方に関する事項
- (3) その他本学におけるFD・SDに関する事項

2) 新学部設置準備室会議(新学部設置準備室規程第2条)

第2条 設置準備室は、次に掲げる業務を行う。

- (1) 新学部の教育課程の編成に関すること。
- (2) 新学部の入学者選抜に関すること。
- (3) 新学部に参加する教員の人事に関すること。
- (4) 新学部の設置に伴う関係部局及び学内委員会との調整等に関すること。
- (5) 新学部の設置に伴う文部科学省、学外関係団体及び企業との折衝に関すること。
- (6) 新学部の設置に伴う関係諸規則の整備に関すること。
- (7) その他新学部の設置準備等に関すること。

3) 共生社会創成学部運営会議（共生社会創成学部運営会議規程第3条）

第3条 運営会議は、共生社会創成学部に関し、次の事項について審議し、学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

- (1) 学生の入学、卒業及び課程の修了
 - (2) 学位の授与
 - (3) 前2号に掲げるもののほか、共生社会創成学部の教育研究に関する重要な事項で、学長が運営会議の意見を聴くことが必要であると定めるもの
- 2 運営会議は、前項に規定するもののほか、学長及び共生社会創成学部長（以下この項において「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

② 実施状況

a 実施内容

1) FD・SD企画室

- (1) FD・SD講演会
- (2) 教員相互の授業参観
- (3) 他機関等が行うFD・SD研修会に関する情報提供

2) 新学部設置準備室会議、3) 共生社会創成学部運営会議

- (1) 障害学生への教育方法に関する研修会
- (2) 障害平等研修会

b 実施方法

1) FD・SD企画室

(1) FD・SD講演会

令和6年度は他の委員会・室、共生社会創成機構等と連携し、以下のテーマについて講演会を実施した。

- ①ウェブアクセシビリティ (7/3)
- ②教職学協働による大学改革 (12/17)
- ③差別解消法に基づく合理的配慮 (2/26)
- ④大学のブランディングと広報戦略 (3/17)
- ⑤大学教育におけるアクティブラーニングの推進 (3/27)

(2) 教員相互の授業参観

令和6年度は学部単位で実施している教員相互の授業参観に加え、全学を対象に教員相互の授業参観を実施した。(12/9～12/13)

(3) 他機関等が行うFD・SD研修会に関する情報提供

令和6年度は他機関等が行うFD・SD研修会について、月1回全学教職員へ情報提供を行った。

2) 新学部設置準備室会議、3) 共生社会創成学部運営会議

(1) 障害学生への教育方法に関する研修会

共生社会創成学部では、視覚障害学生と聴覚障害学生が合同で受講する授業科目があることを踏まえ、独自にそれぞれの障害に配慮した授業の実施等に関する研修会を以下のとおり実施した。

- ①コミュニケーション研修（視覚障害） (3/7)
- ②コミュニケーション研修（聴覚障害） (3/18)

(2) 障害平等研修会

共生社会創成学部では、障害の社会モデルの観点から、障害者を排除しないインクルーシブな社会・組織づくりを職員一人ひとりが考えることを目的として障害平等研修会を以下のとおり実施した。

- ①第1回障害平等研修会 (6/3)
- ②第2回障害平等研修会 (8/21)

c 開催状況（教員の参加状況含む）

1) FD・SD企画室

(1) FD・SD講演会

- ①ウェブアクセシビリティ（7/3） 91名参加
- ②教職学協働による大学改革（12/17） 62名参加
- ③差別解消法に基づく合理的配慮（2/26） 77名参加
- ④大学のブランディングと広報戦略（3/17） 72名参加
- ⑤大学教育におけるアクティブラーニングの推進（3/27） 51名参加

(2) 教員相互の授業参観

令和6年度は学部単位で実施している教員相互の授業参観に加え、全学を対象に教員相互の授業参観を実施した。（12/9～12/13） 60名参加

(3) 他機関等が行うFD・SD研修会に関する情報提供

令和6年度は、他機関等が行うFD・SD研修会について、月1回全教職員へ案内を行った。案内した研修会は78件、うち15件に88名参加。

2) 新学部設置準備室会議、3) 共生社会創成学部運営会議

(1) 障害学生への教育方法に関する研修会

共生社会創成学部では、視覚障害学生と聴覚障害学生が合同で受講する授業科目があることを踏まえ、基幹教員として就任予定の教員を対象に、独自にそれぞれの障害に配慮した授業の実施等に関する研修会を以下のとおり実施した。

- ①コミュニケーション研修（視覚障害）（3/7） 19名参加
- ②コミュニケーション研修（聴覚障害）（3/18） 13名参加

(2) 障害平等研修会

共生社会創成学部では、障害の社会モデルの観点から、障害者を排除しないインクルーシブな社会・組織づくりを職員一人ひとりが考えることを目的として、第1回は基幹教員として就任予定の教員を対象に、第2回は全学教職員を対象に、障害平等研修会を以下のとおり実施した。

- ①第1回障害平等研修会（6/3） 10名参加
- ②第2回障害平等研修会（8/21） 20名参加

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- (1) FD・SD講演会を通じて得られた学外の有識者による教育実践等を授業改善や学生支援に活用
- (2) 教員相互の授業参観により得られた他の教員による学生の障害に配慮した教育方法を授業改善や学生支援に活用
- (3) 障害学生への教育方法に関する研修会により得られたそれぞれの障害に配慮した教育方法を授業改善や学生支援に活用
- (4) 障害平等研修会により得られたインクルーシブな社会・組織作りを障害の社会モデルの観点から考えたことによる知見を学生支援に活用

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

全学的には学期ごとに実施しており、本学部においても同様に実施する予定である。

b 教員や学生への公開状況、方法等

アンケートの集計結果を教員にフィードバックし、授業の改善に活用するだけでなく、集計結果を踏まえた今後の授業改善に向けた対応方針を教員から提出させたり、授業評価アンケート結果を集計した報告書を作成し、学内で共有するなど、学部ごとに工夫して実施しており、本学部においても他学部の対応方法を参考に実施する予定である。

(注)・「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

該当なし

a 委員会の設置状況

(5月1日現在の委員名簿も添付してください。委員に変更がある場合は、その内容と各区分を踏まえた委員構成であることを説明してください。併せて、別途委員名簿を変更内容が分かるよう加筆の上、提出してください。)

b 委員会の開催状況（回数や開催日など）

c 委員会の審議事項等

d その他

② 審議状況

a 審議した内容

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

(4) 自己点検・評価等に関する事項

- ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見
設置の趣旨・目的に沿った教育研究体制を整備し、令和7年4月の開設が順調に行われた。
施設設備については、今後の共生社会創成学部教育分野に関連する図書等の新規受入れによる増加を見据え、図書館において既存の図書等の配架の見直しを行い、令和6年度に大幅な除籍を行った。これにより大学全体の図書等の冊数が減少したものの、必要な図書の購入は実施している。また、令和6年度に行った施設改修により、教室は当初の計画を上回る室数を確保している。
教員配置及びカリキュラム設計については、設置計画どおりに実施している。
- ② 自己点検・評価報告書
学内規程に基づき、定期的に全学的な自己点検・評価及び部局の自己点検・評価を実施することとしている。
- a 公表（予定）時期
本学部の開設後、最初に作成する令和7年度自己点検・評価書は、令和8年10月までに公表を予定している。
- b 公表方法
大学ホームページ上に自己点検・評価書を掲載し、公表する予定である。
- ③ 認証評価を受ける計画
(専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院については、機関別認証評価と分野別認証評価それぞれの受審計画について記載してください。)
全学として、令和6年度に評価機関（大学改革支援・学位授与機構）による評価を受審しており、本学部を含めた評価は、令和13年度までに受審する予定である。

(注)・設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

- 設置計画履行状況報告書（令和7年度）
- a 公表予定の有無 [(有) ・ 無]
- ≪ aで「有」の場合 ≫
- b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]
- c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]
- ≪ aで公表「無」の場合 ≫
- d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。